

東西トレンチ土壤剖面状況

地形地図状況 (基本地形地図断面分)

1. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
2. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
3. 棕褐色粘土
4. 黄褐色粘土
5. 灰褐色粘土 (褐混入)
6. 黄灰褐色粘土 (褐沙混入)
7. 深灰色粘土 (灰褐色砂混入)
8. 黄灰色粘土 (褐色砂混入)
9. 黄灰色粘土 (褐色砂混入)
10. 黄灰色粘土 (褐色砂混入)
11. 黄灰色砂
12. 黄褐色粘土
13. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
14. 黄褐色粘土
15. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
16. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
17. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
18. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
19. 灰色砂砾



6トレンチ土壤剖面状況

地形地図状況 (基本地形地図断面分)

1. 深褐色粘土 (褐色粘子混入)
2. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
3. 棕褐色粘土 (褐色粘子混入)
4. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
5. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)

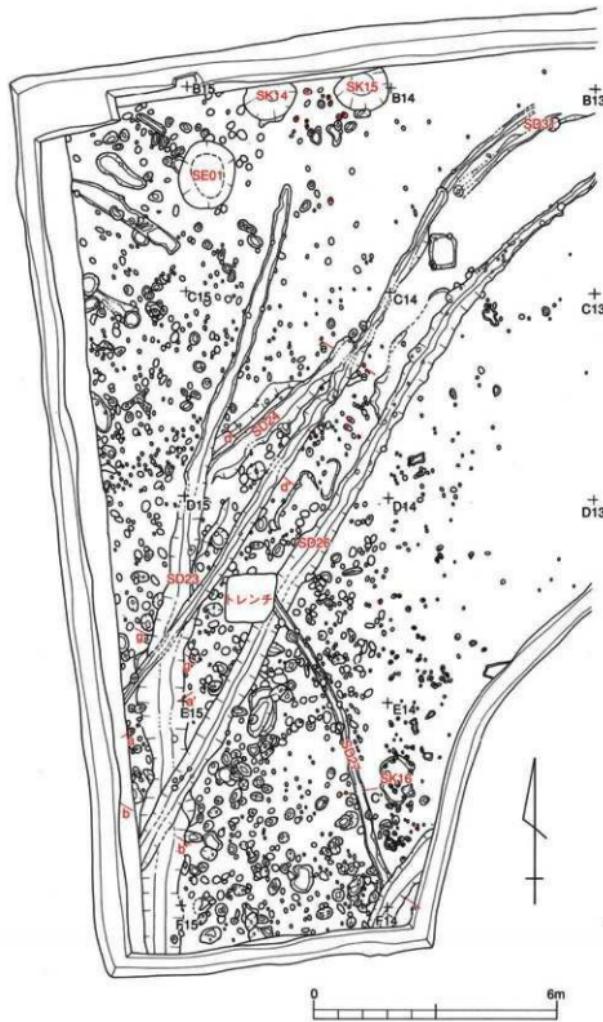


地形地図状況 (基本地形地図断面分)

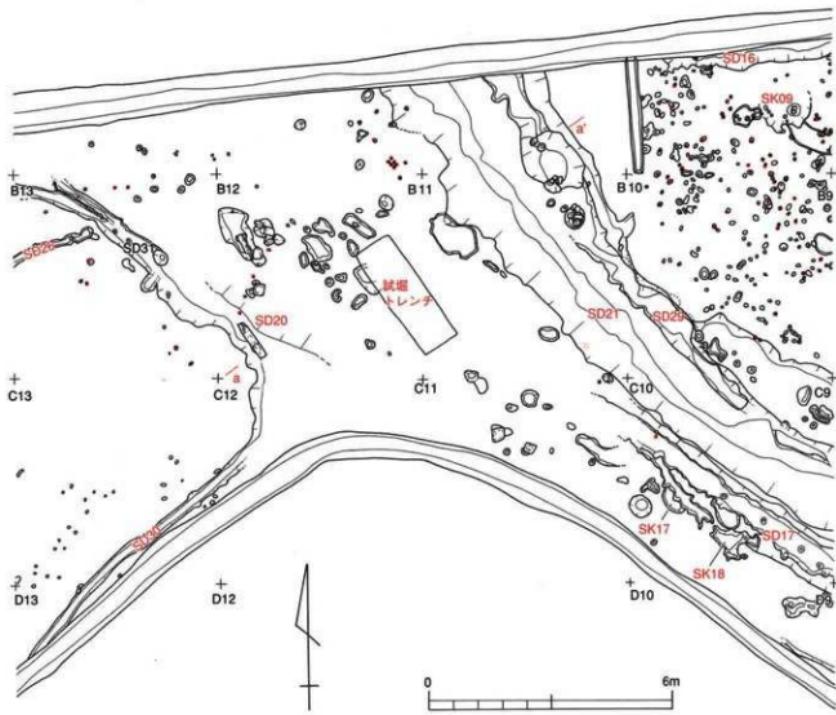
1. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
2. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
3. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
4. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
5. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
6. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)
7. 黄褐色粘土 (褐色粘子混入)

がりは、東側で外反
気味に立ち上がり、
西側で内湾しながら
立ち上がる。

第124図1は縄文
土器である。内外面
ともに2枚貝条痕を
施し、口縁部は外方
に直線的に立ち上が
り外傾する。端部は
丸く仕上げ刻目文を
施している。断面に
粘土の繊目痕を残す。
2~4は弥生土器壺
である。2は内面に
ヘラケズリ調整を施
し、外面にはヘラミ
ガキ調整を施してい
る。立ち上がりは外
反気味に立ち上がる。
3~4は複合口縁を
呈する口縁部は、外
反しながら立ち上が
り、端部を丸く仕上
げている。3は口縁
部内外面及び頸部外
面にナデ調整を施し、
頸部内面にはヘラケ
ズリ調整を施す。口
縁部外面に9条以上
の擬凹線を施してい
る。4は口縁部及び
頸部内外面にナデ調
整を施し、体部内面
にヘラケズリ調整を
施す。口縁部外面に



第109図 II区平面図1 (S = 1 / 120)



第 110 図 II 区平面図 2 ($S = 1/120$)

8 条の擬凹線を施している。

<SK 02> (第 123、125 図)

東西 1.38 m、南北 2.86 m、深さ 0.36 m の土壤で、SD 11 との切り合い関係から、SD 11 より新しい遺構と考えられる。壁の立ち上がりは南側で外方に直線的に立ち上がり、北側で内湾しながら立ち上がる。

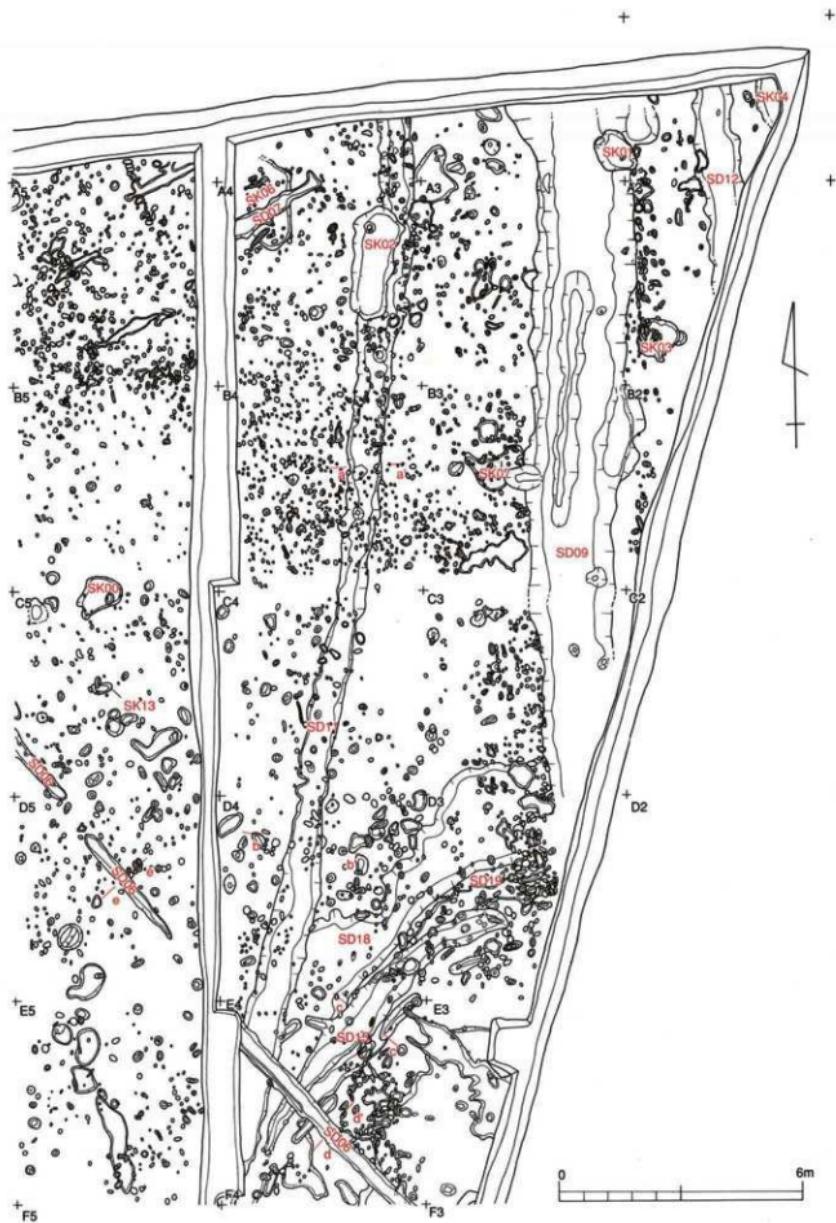
第 125 図 1 は弥生土器壺で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は内傾しながら立ち上がり、端部は肥厚させ平坦面を作る。2 ~ 3 は土師器である。2 は直口壺で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3 は壺で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。

<SD 11> (第 112 ~ 114、196 図)

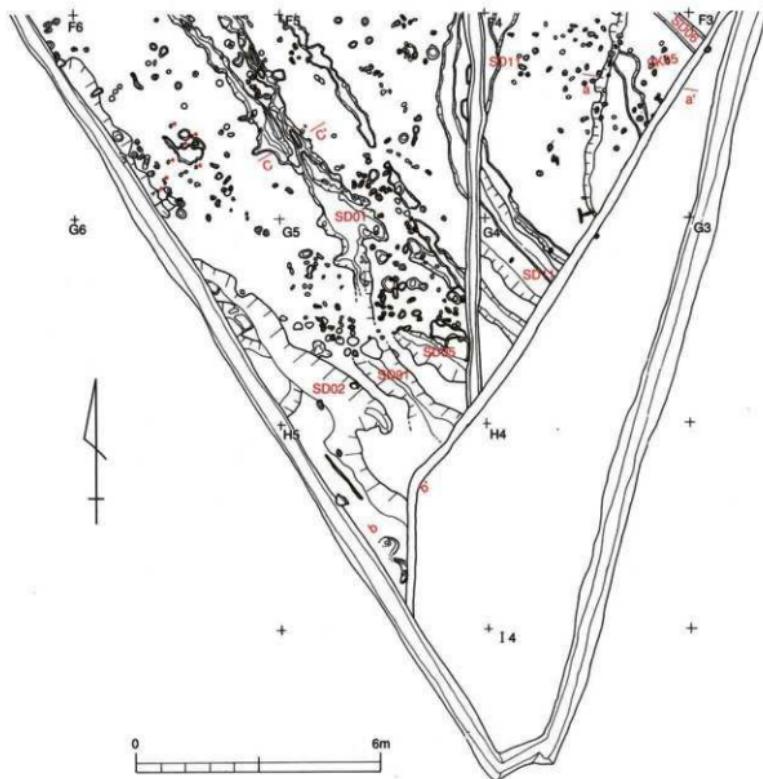
調査区を南北に巡る溝状遺構で、調査区南側で東に折れている。溝の規模は幅約 0.8 m、深さ 0.15 m を測る。遺構の掘り込み面は⑤層上面で、切り合い関係から SK 02 より古い遺構と考えられる。



第111図 II区平面図3 (S = 1 / 120)



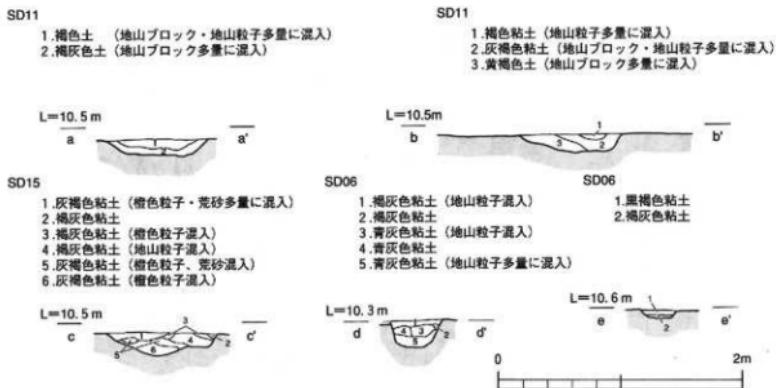
第112図 II区平面図4 (S = 1 / 120)



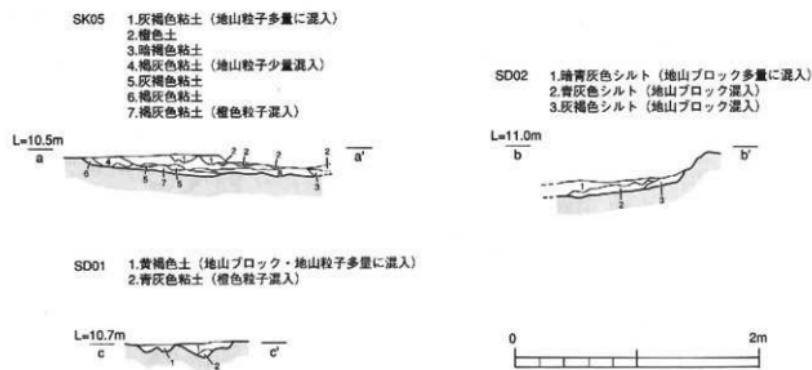
第113図 Ⅱ区平面図5 ($S = 1/120$)

壁の立ち上がりは、東西ともに外反気味に立ち上がる。

第126図1～4は縄文土器である。1は内面にナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。口縁部外面に刻目突帯を貼付している。2は口縁部は内側に直線的に立ち上がり、口縁部外面に突帯を貼付している。3は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部に刻目文を施す。4は外面にナデ調整を施す。口縁部は内側に内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部外面には突帯を貼付している。5～10は弥生土器で、5は口縁部は内湾気味に立ち上がり外傾する。端部を丸く仕上げている。6～7、9は甕の底部である。6は内外面ともにナデ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。7は内湾気味に立ち上がる。9は外面にナデ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。8は器台底部で、内面にヘラケズリ調整、外面にナデ調整を施す。複合口縁状に作られた脚台部は内湾気味に広がり、



第114図 SD11・SD15・SD06 土層堆積状況 ($S = 1/140$)

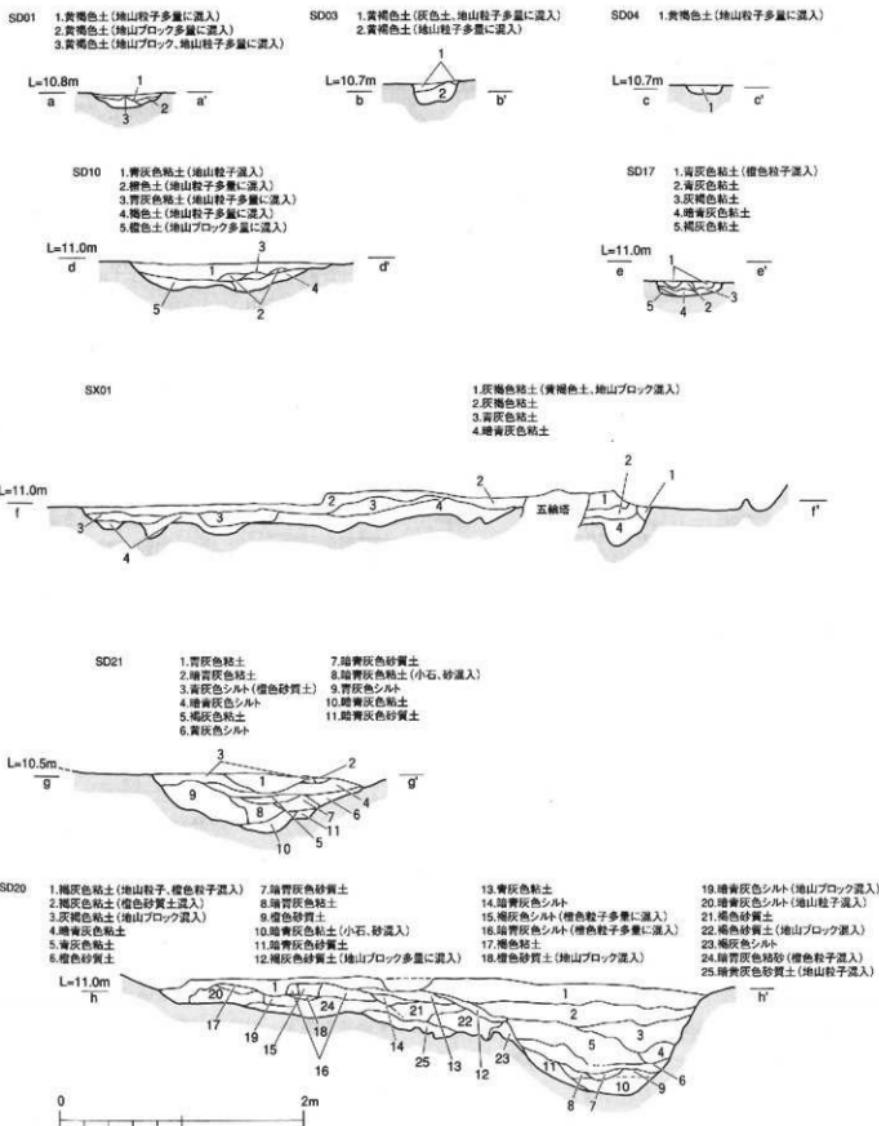


第115図 SK05・SD02・SD01 土層堆積状況 ($S = 1/40$)

端部を尖り気味に仕上げている。脚台部外面には10条以上の擬凹線が施されている。10は内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部外面に1条の凹線が施されている。11は土師器壺の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に平坦気味に仕上げている。12は須恵器壺で、内面に青海波、外面に平行タタキの後カキ目調整を施す。13は石斧である。

<SK 06 > (第112、120図)

東西1.26m以上、南北2.23m以上、深さ約0.1mの土壤で、SD 07との切り合い関係から、SD 07より新しい造構と考えられる。

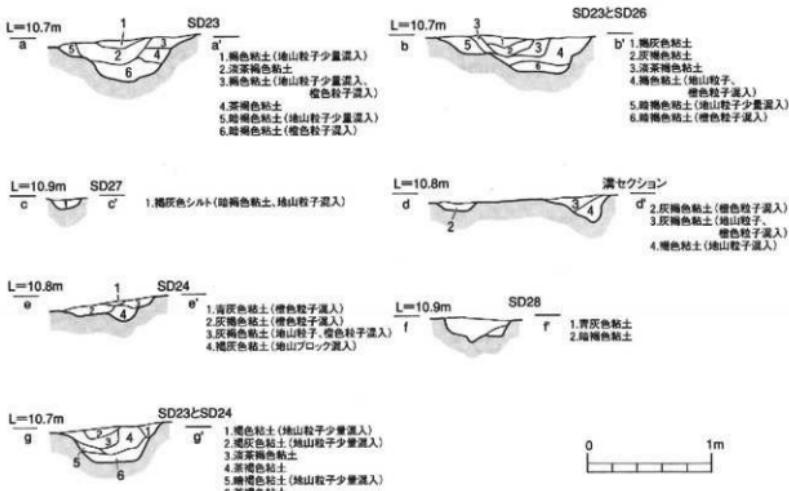


第116図 SD01・SD03・SD04・SD10・SD17・SX01・SD20～22 土層堆積状況 (S = 1 / 40)

1. 黄灰色粘土	9. 青灰色粘土	17. 青灰色粘土	25. 灰褐色粘土
2. 青灰色粘土(地山ブロック混入)	10. 青灰色粘土(植物質混入)	18. 青灰色粘土(橙色粒子混入)	26. 青灰色砂
3. 橙色粘土	11. 橙色砂質土	19. 青灰色砂質土	27. 暗褐色粘土
4. 淡褐色粘土(地山粒子少量混入)	12. 青灰色粘土	20. 棕色土(地山ブロック多量に混入)	28. 青灰色砂質土
5. 暗青灰色粘土(橙色粒子混入)	13. 青灰色砂質土(砂混入)	21. 青灰色粘土	29. 灰色砂質土
6. 青灰色粘土	14. 粘土(地山ブロック多量に混入)	22. 青灰色粘土(橙色粒子混入)	30. 灰褐色粘土(暗褐色粘土混入)
7. 青灰色シルト	15. 棕色粘土	23. 棕色粘土	
8. 暗青灰色粘土(植物質混入)	16. 棕色砂質土(地山ブロック混入)	24. 青灰色粘土	



第117図 SD20～21 土層堆積状況 (S = 1 / 80)



第118図 SD23～28 土層堆積状況 (S = 1 / 40)

第127図1は縄文土器で、内面に二枚貝条痕を施し、外面には突帯を貼付しナデ調整を施す。
<SD06> (第111～114、128図)

北西から南東方向に直線的に伸びる溝状造構で、幅0.3m、深さ0.25mを測る。造構の掘り込み面は④層上面で、壁の立ち上がりは、東西ともに外方に直線的に立ち上がる。

第128図1～3は弥生土器である。1は壺で、外面にナデ調整を施す。口縁部は外側に水平に開き、端部を平坦気味に仕上げている。体部外面に7条のヘラ書き直線文を施す。2は壺の体部で、外面にナデ調整を施す。内面は風化が著しいが指頭圧痕が残る。3～5は須恵器である。3は須恵器壺の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、外側に折り込んでいる。端部は平坦気味に仕上げている。4は高杯の脚部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。据部

の広がりは外方に直線的に広がり外傾する。

端部は平坦気味に仕上げている。5は皿の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は口唇部で外傾し、端部を尖り気味に仕上げている。

<SD 15、SD 19>

(第112、114、129図)

北東から南方向に伸びる溝状遺構で、SD 19をSD 15がほぼ同じルートで切っている。SD 15は横幅約0.45m、深さ約0.1mを測り、SD 19は横幅0.6m以上、深さ約0.1mを測る。

第129図1は縄文土器で外面に刻目突帯を貼付し、内外面にナデ調整を施す。口縁部は口唇部で外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。2は土師器壺口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり外傾する。端部は平坦気味な面を作っている。3は赤瑪瑙の未製品である。

<SD 02>

(第113、115、130図)

北西から南東方向に



第119図 SD09・SD12・SK04・SK03 遺構実測図 (S=1 / 80)

かけて伸びる

溝状遺構で、

方向からSD

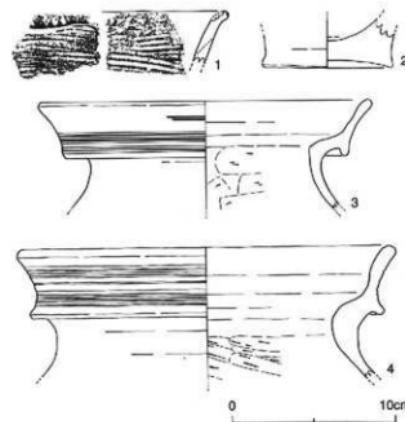
21と繋がる

可能性もある。 第120図 SD12出土遺物
溝の規模は幅1m以上、深さ約0.25mで、壁
の立ち上がりは、東側内で内湾しながら立ち
上がる。

第130図1は瓷器系陶器壺で、内面にヘラ
ケズリ調整を施し、外面にナデ調整を施す。
外面及び断面に粘土の接合痕が残る。2は在
地土器捏鉢で、内面にナデ調整を施す。

<SD01> (第111、113、115~116、131図)

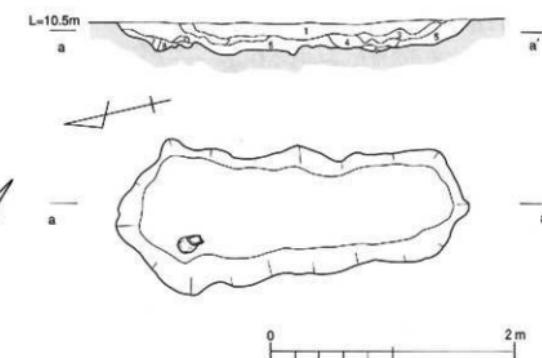
北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺
構で、幅約0.6m、深さ約0.15mを測る。S



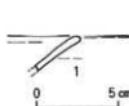
第121図 SD09出土遺物



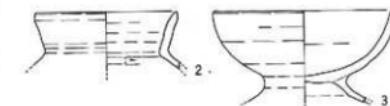
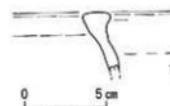
第122図 SK01遺構実測図(S=1/40)



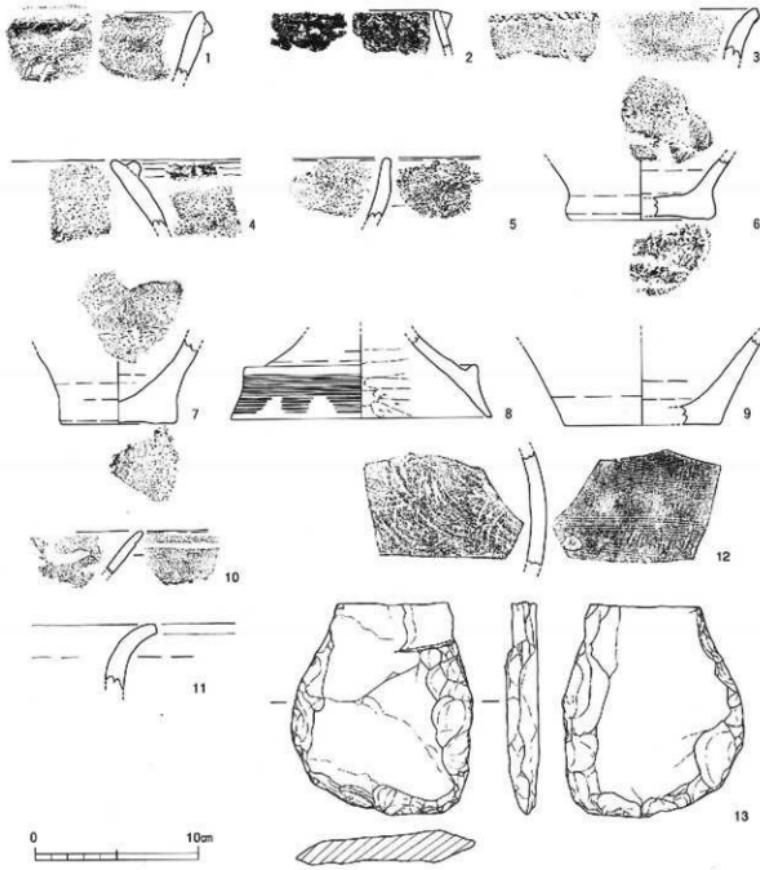
第123図 SK02遺構実測図(S=1/40)



第124図 SK01出土遺物



第125図 SK02出土遺物



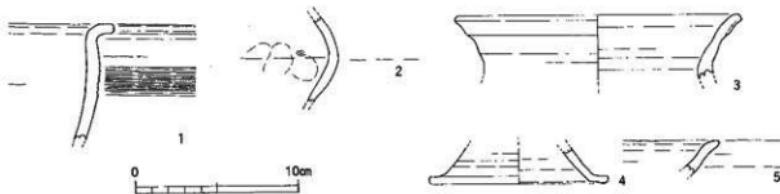
第126図 SD11出土遺物

D 03と同じ埋土を含むことから、SD 03と同じ時期の溝と考えられる。壁の立ち上がりは、東西とともに外方に直線的に伸びるが、中程にステップ状の平坦面を残す。

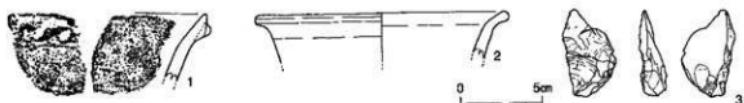
第131図1～2は弥生土器の壺である。1は底部で外面にナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を上下に拡張させている。端部には2条の擬凹線が施されている。3～5は土師器である。3は高壺で、内面にハケ目調整を施し、外面にナデ調整を施す。4は低脚壺の脚部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。5は円筒



第127図 SK06出土遺物



第128図 SD06出土遺物



第129図 SD15・SD19出土遺物

埴輪で、外面に綫方向のハケ目調整を施す。

内面は風化が著しいが、ヘラミガキ調整またはヘラケズリ調整を施しているものと考えられる。6～8は須恵器である。6は蓋の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。端部は丸く仕上げている。7は蓋の口

縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。端部は内側に屈曲させ丸く仕上げている。8は底部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部には高台を貼付している。9は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

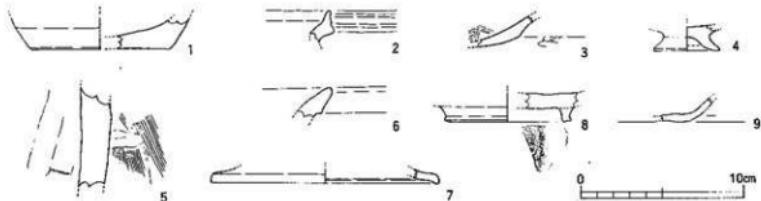
<SD03> (第111、113、116、132図)

北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約0.4m、深さ約0.2mを測る。SD01と同じ埋土を含むことから、SD01と同じ時期の溝と考えられる。壁の立ち上がりは、東側が内湾気味に伸びた後外反気味に立ち上がり、西側は外方に直線的に立ち上がる。

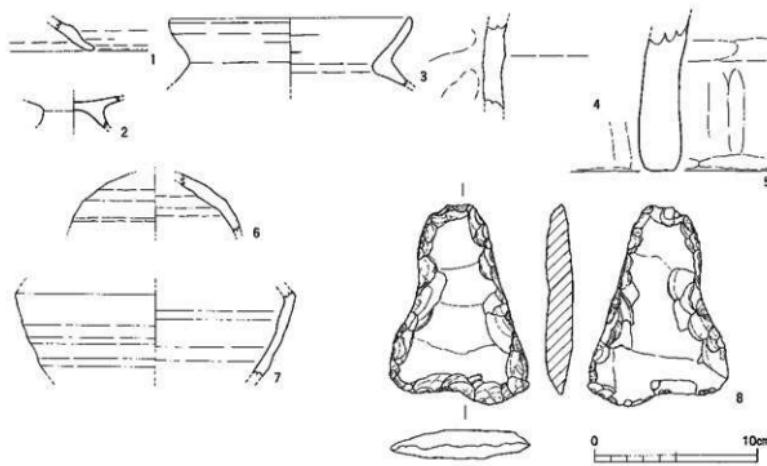
第132図1は弥生土器蓋で、内外面ともにナデ調整を施す。裾の広がりは口唇部で外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。2～4は土師器である。2は低脚坏の脚部で、外面及び底部にナデ調整



第130図 SD02出土遺物



第131図 SD01出土遺物



第132図 SD03出土遺物

を施す。裾部は外反気味に伸びる。3は壺で、口縁部内外面及び体部外面にナデ調整を施し、体部内面にはヘラケズリ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4～5は円筒埴輪である。

4は内面に指頭圧痕を施し、外面にナデ調整を施す。5は底部で、外面にナデ調整及びヘラミガキ調整を施す。底部にはカット技法を施し、平坦面を作っている。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。6～7は須恵器である。6は壺蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。7は長頸瓶の体部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。肩部が屈曲するタイプである。SD04出土破片と接合関係にある。8は石斧である。

<SD04> (第111、113、116、133図)

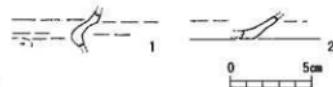
北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。遺構の掘り込み面は③層上面である。SD03と遺物の接合関係があることから、SD03と同時期の遺構と考えられる。壁の立ち上がりは、東側が内湾気味に立ち上がり、西側は外方に直線的に立ち上がる。

第133図1は弥生土器壺で、複合口縁を呈するものと考えられる。口縁部及び頸部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施している。2は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残しているものと考えられる。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。

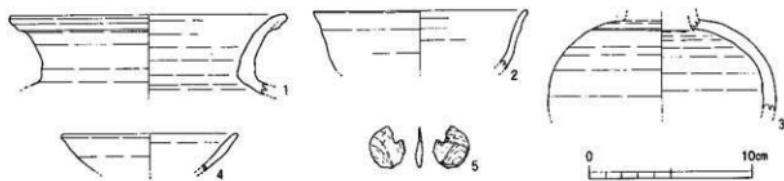
<SD10> (第111、116、134図)

北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約1.4m、深さ約0.25mを測る。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で内湾気味に立ち上がる。

第134図1～3は須恵器である。1は壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、外側に折り曲げている。端部は丸く仕上げている。2は壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3



第133図 SD04出土遺物



第134図 SD10出土遺物

は水注の肩部から体部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。体部上半分は球状を呈し、上部に細身の頸部が接合するものと考えられる。4は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。器形から下部に柱状高台が付く可能性もある。口縁部は内湾気味に立ち上がりやや外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。5は赤瑪瑙の薄片である。

<SK 11> (第111、135図)

縦長1.55m、横幅0.6m、深さ約0.2mの平面格円形の土壙である。

壁の立ち上がりは、やや外方に直立的に立ち上がる。



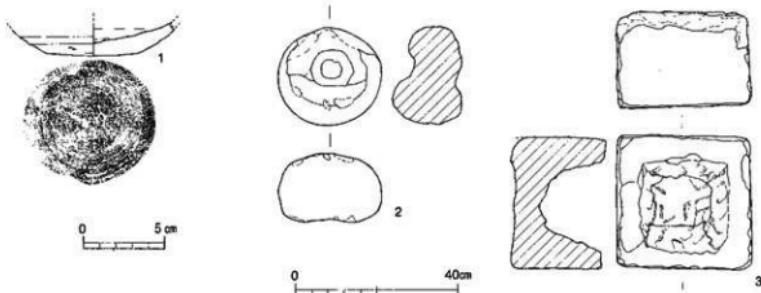
第135図 SK11出土遺物

第135図1は縄文土器口縁部である。内外面ともにナデ調整を施し、外面に刻目突帯を貼付している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部は尖り気味に仕上げている。

<SX 01> (第111、116、136図)

調査区の端部で確認した遺構で、SD 21と繋がる可能性もある。遺構に隣接して方形状の凹みを4か所確認しており、出土した五輪塔はこの位置に設置されていたものと考えられる。

第136図1は須恵器坏身である。内面は回転ナデ調整を施した後ナデ調整及び指頭圧痕を施す。外面は回転ナデ調整を施し、底部には回転ヘラ切りの後、ヘラ記号「×」及び格子状のヘラ記号が残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2～3は五輪塔である。2は水輪で、最大径を中程に持つタイプ、3は地輪である。



第136図 SX01出土遺物

<SD 08> (第111、137図)

北西から南東に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約1.2m、深さ約0.1mである。

第137図1は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部で上下に拡張させている。端部には3条の擬凹線が施されている。

<SD 16> (第110~111、138図)

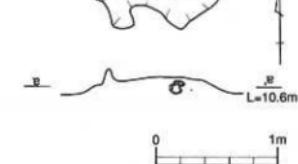
調査区北端で検出した溝状遺構で、横幅0.5m以上、深さ約0.15mを測る。

第138図1は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は回転糸切の後高台を貼付している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2は土師質土器坏である。

<SK 09> (第139~140図)

東西1.2m以上、南北0.6m以上、深さ約0.1mの擂鉢状の土壙である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で内湾気味に立ち上がる。

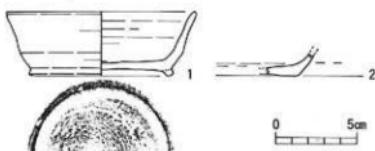
第140図1~2は土師器坏で、口縁部内外面にナデ調整を施し、器壁中程から底部にヘラケゼリ調整を施す。内外面ともに赤彩を施している。1は内面見込に放射状の暗文を施す。口縁部は口唇部から内傾し、端部を尖り気味に仕上げている。2は口縁部は口唇部から内側に内湾気味となる。端部は丸く仕上げている。



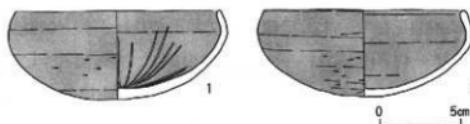
第139図 SK09 遺構実測図(S=1/40)



第137図 SD08 出土遺物



第138図 SD16 出土遺物

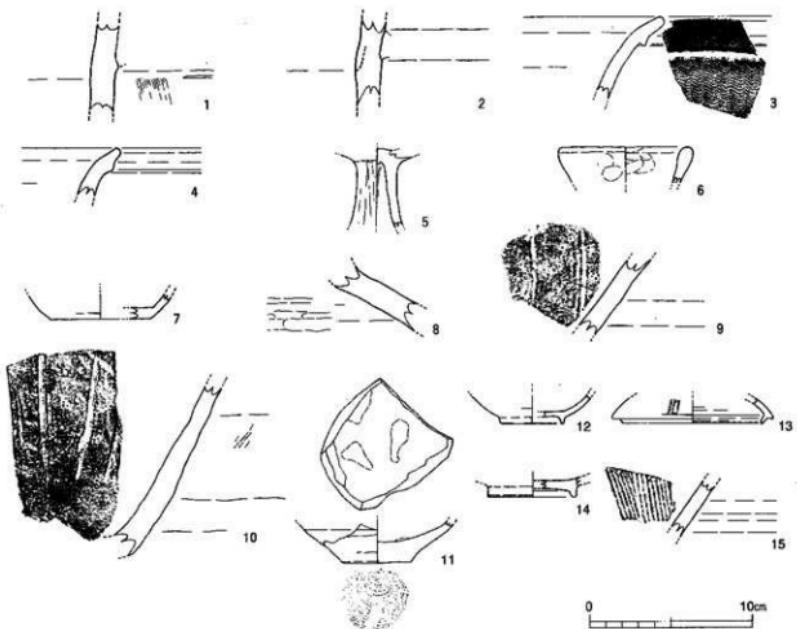


第140図 SK09 出土遺物

<SD 20> (第110~111、116~117、141~142図)

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約10.0m、深さは約0.3mを測る。切り合ひ関係からSD21及びSD29より古い遺構と考えられる。一方、現状での掘り込み面は③層下からであるが、周辺は④~⑤層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側は外反しながら立ち上がり、西側は外反気味に立ち上がる。

第141図1~2は円筒埴輪である。1~2は内面にナデ調整、外面に縦方向のハケ目調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がり、外面にはタガの接合痕が残る。2は断面にも粘土の接合痕が残る。3~4は須恵器窯の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3は外面に波状文を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、肥厚させて端部を平坦気味に仕上げている。4は外反しながら立ち上がり、肥厚させて端部を丸く仕上げている。外面に自然釉が付着している。5は土師器高坏の脚部で、内外面ともにヘラミガキ調整を施す。裾部は外反気味に広がる。6は製塩土器で、内外面

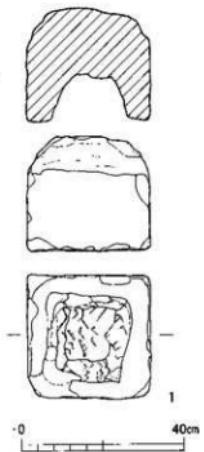


第141図 SD20出土遺物1

ともに指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。7は白磁碗で、内外面ともに施釉する。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。器壁と内面見込の間に界線を施している。8は瓷器系陶器壺の肩部で、内外面ともにナデ調整を施す。外面に灰が被る。9～10は在地土器の擂鉢で、立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。内面には擂目が施されている。9は内外面ともにナデ調整を施す。10は内面にナデ調整を施し、外面にはハケ目及びナデ調整が施される。11は肥前系陶器塊で、内外面に回転ナデ調整を施した後、内外面ともに施釉している。底部には回転系切痕が残り露胎としている。内面見込に砂目積みの痕跡が残る。12は京焼風陶器で、内面は施釉し貫入が入る。底部は露胎としている。13は肥前系染付蓋で、内外面ともに施釉し、口縁部端部は露胎としている。外面には染付を施している。14は近世以降の陶器擂鉢で、内面に擂目を施し、外面には回転ナデ調整及び回転ヘラケズリ調整を施している。

第142図は宝篋印塔の基礎で、上部は細くしている。風化が著しい

第142図 SD20出土遺物2



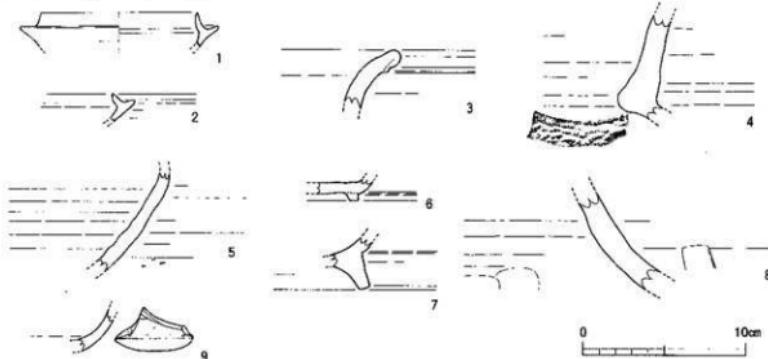
が壇状の加工がされていた可能性がある。

<SD 21> (第 110 ~ 111, 116 ~ 117, 143 図)

北西から南東方向に伸びる溝状造構で、溝の規模は横幅約 1.8 m、深さ約 0.75 m を測る。切り合ひ関係から SD 20 より新しく、SD 29 より古い造構と考えられる。現状での掘り込み面は③層下からであるが、SD 20 と同じく周辺は④~⑤層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で外反しながら立ち上がる。

第 143 図 1 ~ 6 は須恵器である。1 ~ 2 は坏身の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。かえりの立ち上がりは、1 は上方に反り上げ、2 は内側に伸びる。端部はともに尖らせている。3 ~ 4 は壺である。3 は口縁部で、外面に回転ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち上がり、外側に折り曲げる。端部は丸く仕上げている。4 は縁部に 1 条の沈線を施している。5 は頸部から体部で、内外面ともにナデ調整を施す。体部内面には青海波を施しているものと考えられる。6 は鉄鉢形須恵器の可能性がある遺物で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面にはヘラケズリ調整を施している。立ち上がりは内湾気味である。6 は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼付している。器壁と内面見込の間に界線を施している。7 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に高台を施している。8 は瓷器系陶器壺の頸部から肩部で、内外面頸部内外面にナデ調整を施し、肩部内面に圧痕、外面にヘラケズリ調整を施す。肩部外面に灰が被る。9 は肥前系染付境で、外面に染付を施す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。

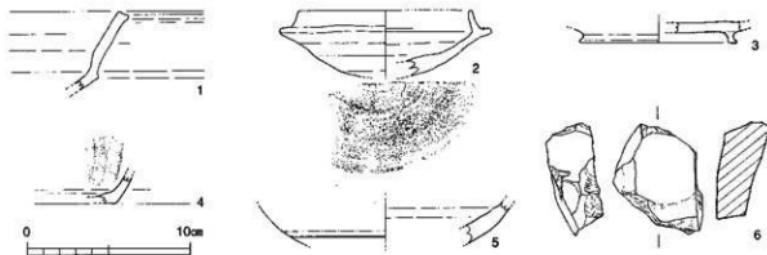
<SD 29> (第 110, 144 図)



第 143 図 SD21 出土遺物

北西から南東方向に伸びる溝状造構で、溝の規模は横幅約 0.8 m、深さ約 0.6 m を測る。切り合ひ関係から SD 20 及び SD 21 より新しい造構と考えられる。SD 20 及び SD 21 と同じく、現状での掘り込み面は③層下からであるが、周辺は④~⑤層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で外反しながら直線的に立ち上がる。底部は袋状になっている。

第 144 図 1 は弥生土器壺の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。複合口縁を呈する口縁部の立



第144図 SD29出土遺物

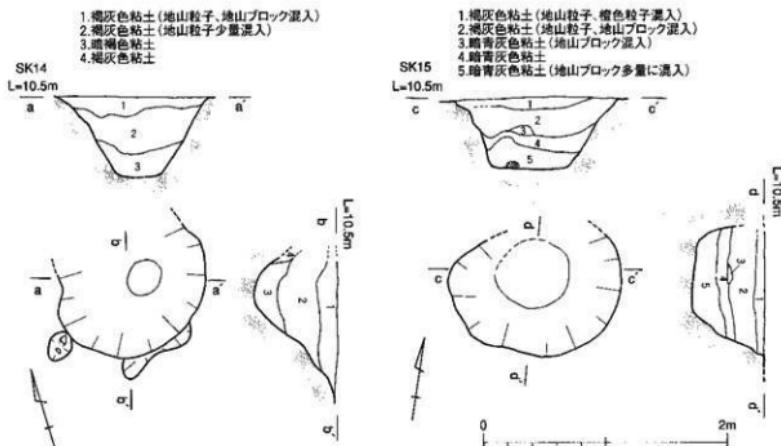
ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部に平坦面を作っている。口縁部外面にススが付着する。2～3は須恵器である。2は壺身で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部には回転ヘラ切りを施している可能性がある。L.I.縁部のかえりは、内側に直線的に伸び、端部を尖らせている。3は底部で、内面見込にナデ調整を施し、底部には高台を貼付して回転ナデ調整している。高台端部外側が外方に拡張している。4は土師質土器壺で、内面に回転ナデ調整を施している。立ち上がりは内清気味に立ち上がる。5は産地不明の陶器で、内面に回転ナデ調整を施し、外面は施釉の後底部を釉ハギし露胎を作っている。立ち上がりは内清気味に立ち上がる。6は青瑪瑙の原石で、一部打点が残る。

<SD 17> (第 110～111 図)

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約 0.5 m、深さ約 0.15 m を測る。

<SK 14> (第 145 図)

東西 1.22 m 以上、南北 1.12 m 以上、深さ 0.66 m を測る土壤である。壁の立ち上がりは東側で外方に直線的に立ち上がり、西側で外反しながら立ち上がる。



第145図 SK14・SK15遺構実測図 (S = 1 / 40)

<SK 15> (第145図)

東西1.42m、南北1.02m以上、深さ0.60mを測る土壌である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で外反しながら立ち上がる。

<SE01> (第146~147図)

東西1.59m、南北1.64m、深さ1.01m以上を測る井戸跡である。壁の立ち上がりは、南北ともに外反しながら立ち上がる。

第147図1は須恵器甕である。内面には青海波を施し、外面には幅広の平行タタキを施している。2

~3は土師質土器である。

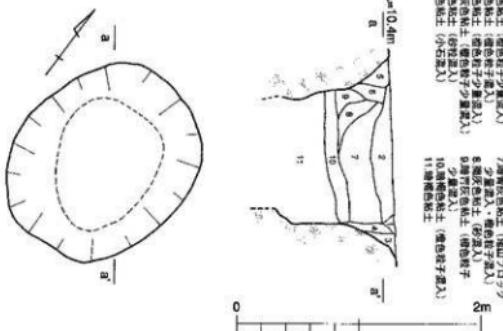
2は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、やや括れを持った後外反気味となる。端部は尖らせてある。3は坏または小皿で、内面に回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。

<SD 23~28、SD 31> (第109~110、118図)

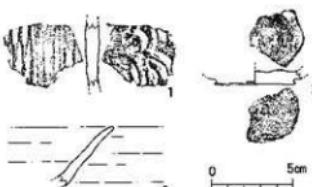
調査区西側に密集する溝状遺構群で、溝の大半が検出した基盤層を巡るように伸びていることから、旧丘陵の周りを巡っていた溝と考えられる。

SD23は横幅約0.5m、深さ約0.3m、SD24は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD25は横幅約0.4m、深さ約0.2m、SD26は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD27は横幅約0.2m、深さ約0.1m、SD28は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD31は横幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。切り合い関係からSD24が最も古く、SD23、SD25及びSD26、SD27、SD28といった順に作られている。遺物が出土していないことから、時期の詳細は不明であるが、SD23が④層上面で確認されていることから、少なくともSD23以降の溝については、中近世以降と考えられる。

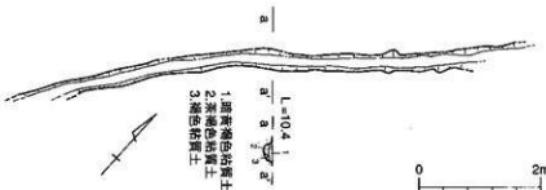
一方、溝は新しくなるにつれてルートを南側丘陵近辺に移行していく。溝が旧丘陵の裾を巡らせていたものとするなら、丘陵は徐々に削平されて



第146図 SE01 遺構実測図 ($S = 1 / 40$)



第147図 SE01 出土遺物



第148図 SD30 遺構実測図 ($S = 1 / 80$)

いったのであろう。

花粉分析の結果からは、付近で蕎麦畑や水田が作られていた可能性が考えられている。検出された溝もこれらの耕作に関係するのであろう。

<SD 30> (第 148 図)

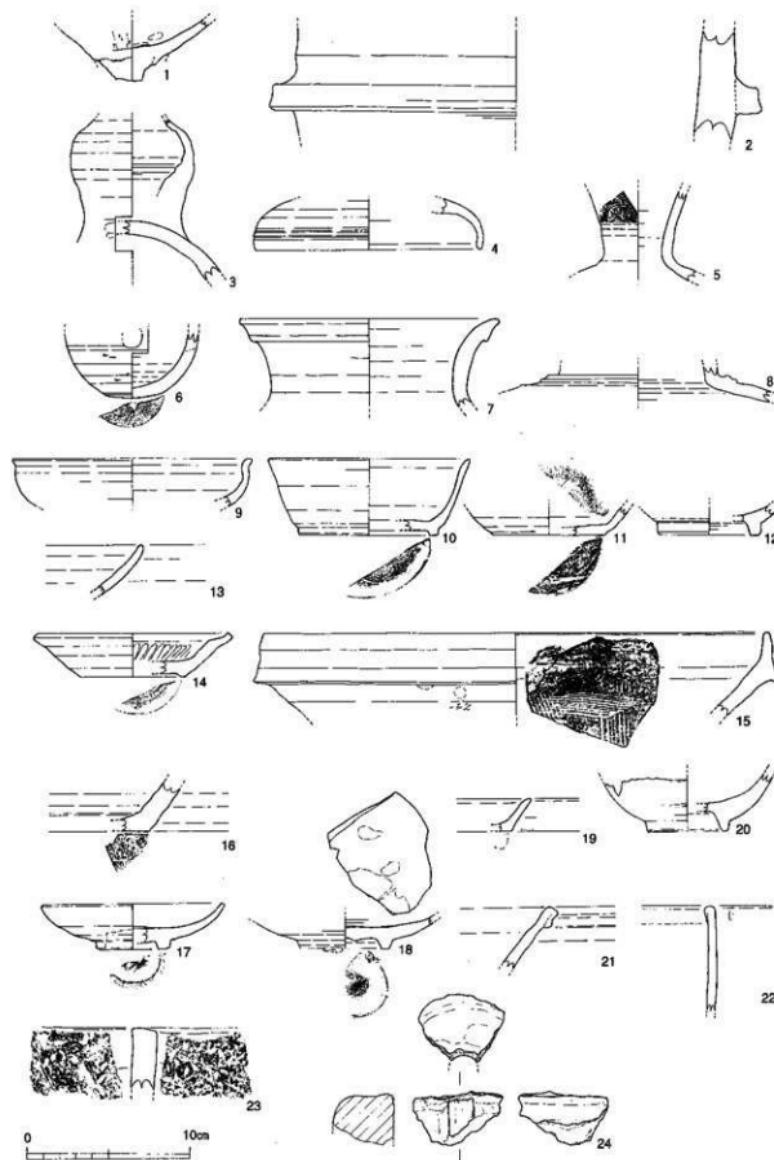
北東から南西方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約 0.3 m、深さ約 0.15 m を測る。壁の立ち上がりは、南北ともに外方に直線的に立ち上がる。

b. 包含層出土遺物

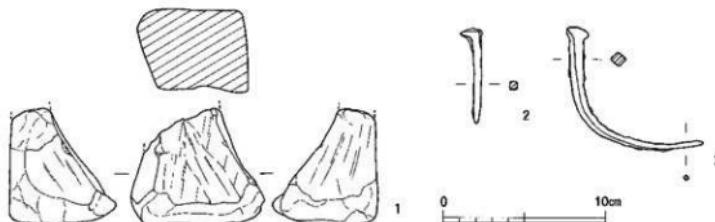
出土遺物から①～③層は近世以降、④～⑤層は弥生時代から中世まで、⑥層は弥生時代初頭前後まで、⑦層は縄文後期を中心とした時期に堆積した層と考えられる。

<第②層> (第 149～151 図)

第 149 図 1～2 は土師器である。1 は高壺で、内面にはナデ調整及び指頭圧痕を施し、外面にはヘラケズリ調整及びナデ調整を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。底部には円盤を充填している。2 は円筒地輪で、内外面ともにナデ調整を施す。外面にタガを施している。3～11 は須恵器である。3 は子持壺の小壺で、体部片に小壺片が付着している。小壺は内外面ともに回転ナデ調整を施しており、体部との接合部で圧痕を残す。4 は壺蓋の口縁部で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾しながら伸び、端部を尖り気味に仕上げている。外面には 3 条の浅い沈線を施している。5 は鰐の頸部及び肩部で、肩部内面にナデ調整を施し、頸部内外面及び肩部外面には回転ナデ調整を施す。また頸部外面には波状文及び 1 条の沈線が施されている。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。6 は内外面に回転ナデ調整を施し、体部外下部分に回転ヘラケズリ調整を施す。体部中程に穿孔が施されている。7 は須恵器壺の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、肥厚させて端部を尖り気味に仕上げている。8 は長頸瓶の肩部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。肩部外面に 2 条の稜線が施されている。9～11 は壺である。9 は口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり括れて外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。10 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部は高台を貼付しナデ調整している。底部にヘラ状工具痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。11 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。12 は白磁碗で、内外面ともに施釉している。底部は削り出し高台で、釉ハギし露胎を作っている。13 は土師質土器壺の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。14 は瀬戸焼灰釉折縁皿で、内外面ともに施釉し、内面見込及び底部を釉ハギしている。施釉部には貫入が入る。内面器壁に菊花弁が陰刻されていることから、菊花皿になるものと考えられる。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は平坦気味に仕上げている。15～16 は備前焼である。15 は擂鉢で、内面にナデ調整を施した後、1 単位 8 条の擗目を施し、外面にはナデ調整を施した後、一部に指頭圧痕、ヘラケズリ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、上下に拡張させている。端部は丸く仕上げている。乘岡氏の中世 5 期 a の遺物である。16 は壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、外面はその後ナデ調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。17 は白磁皿で、内外面ともに施釉し、底部には露胎を作っている。高台は

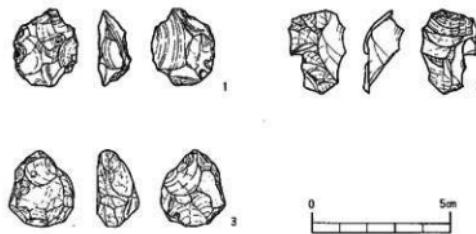


第149図 第②層出土遺物 1



第150図 第②層出土遺物2

削り出し高台である。口
縁部は内湾しながら立ち
上がり、端部に平坦面を
作っている。18は肥前
系陶器で、内面を施釉し
底部は露胎としている。
高台は削り出し高台で、
内面見込み及び高台疊付に
胎土日積みの痕跡が残る。



第151図 第②層出土遺物3

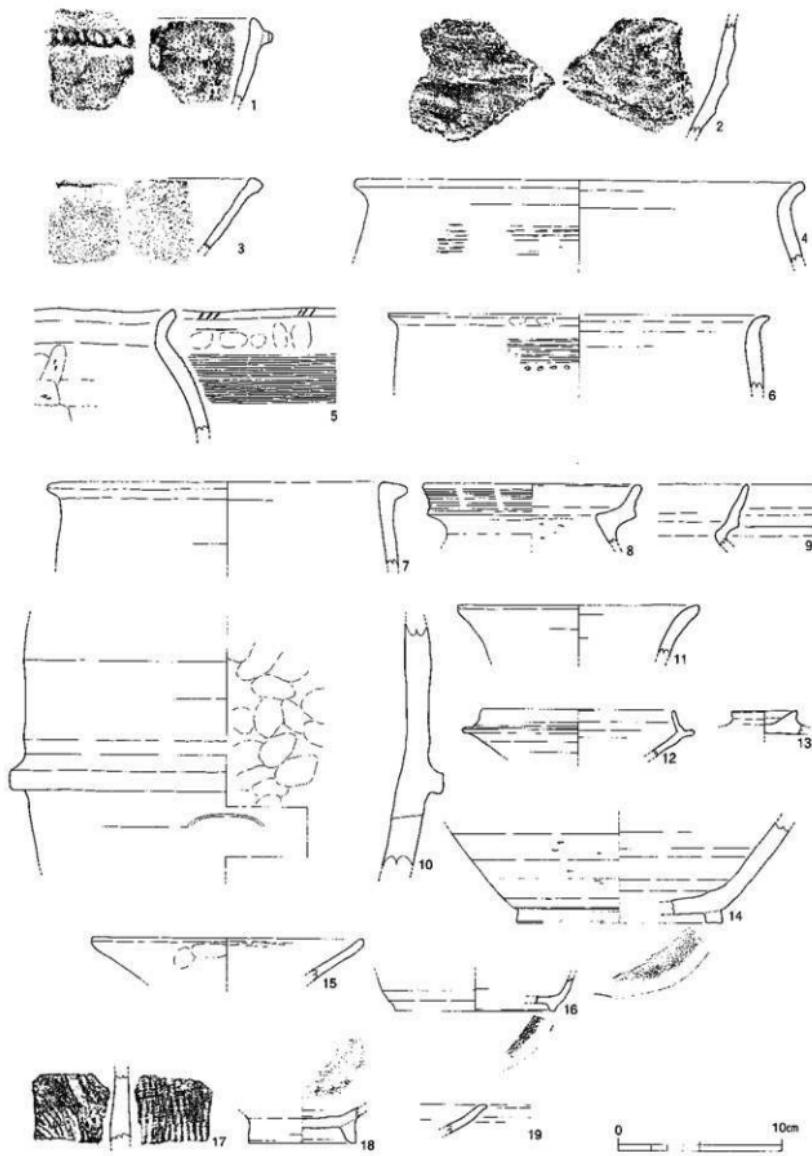
立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。19は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。外面の器壁及び底部の界線が明確である。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。20は陶胎染付塊で、内外面ともに施釉し、高台疊付は露胎としている。高台見込は高台周辺より深く作り、外面には染付を施している。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。21は产地不明の捏鉢または擂鉢である。内外面ともに回転ナデ調整を施している。口縁部は外反気味に立ち上がり、外側に折り曲げる。端部は平坦気味に仕上げている。22は布志名焼火鉢で、口縁部内外面及び外面を施釉し、内面を露胎としている。口縁部は内湾気味に立ち上がる。23は用途不明の粘土板で、全面に多量の粗粒痕が残る。24は羽口である。

第150図1は砥石で、3面を使用している。2～3は鉄釘で、釘頭は2がL字形、3はT字形を呈する。

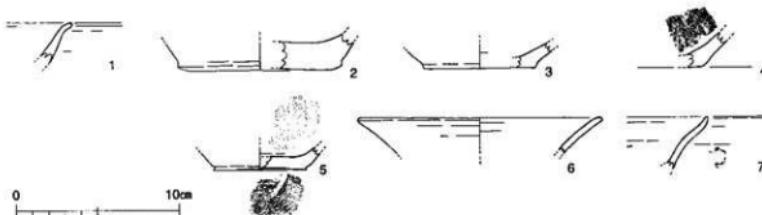
第151図1～2は石器の未製品で、1は黒曜石に酷似したガラス質の石、2は黒曜石である。3は水晶の未製品である。

<第③層>（第152～155図）

第155図1～3は縄文土器である。1～2は内外面ともにナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。1は口縁部外面に刻目突帯を貼付する。3は内面にヘラケズリ調整を施し、外面は口縁部にナデ調整、下部に二枚貝条痕を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、肥厚させて、端部に平坦気味な面を作っている。4～9は弥生土器甕である。4は口縁部内外面にナデ調整を施し、肩部外面に数条の凹線を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部で平坦気味に仕上げている。



第152図 第③層出土遺物 1



第153図 第③層出土遺物2

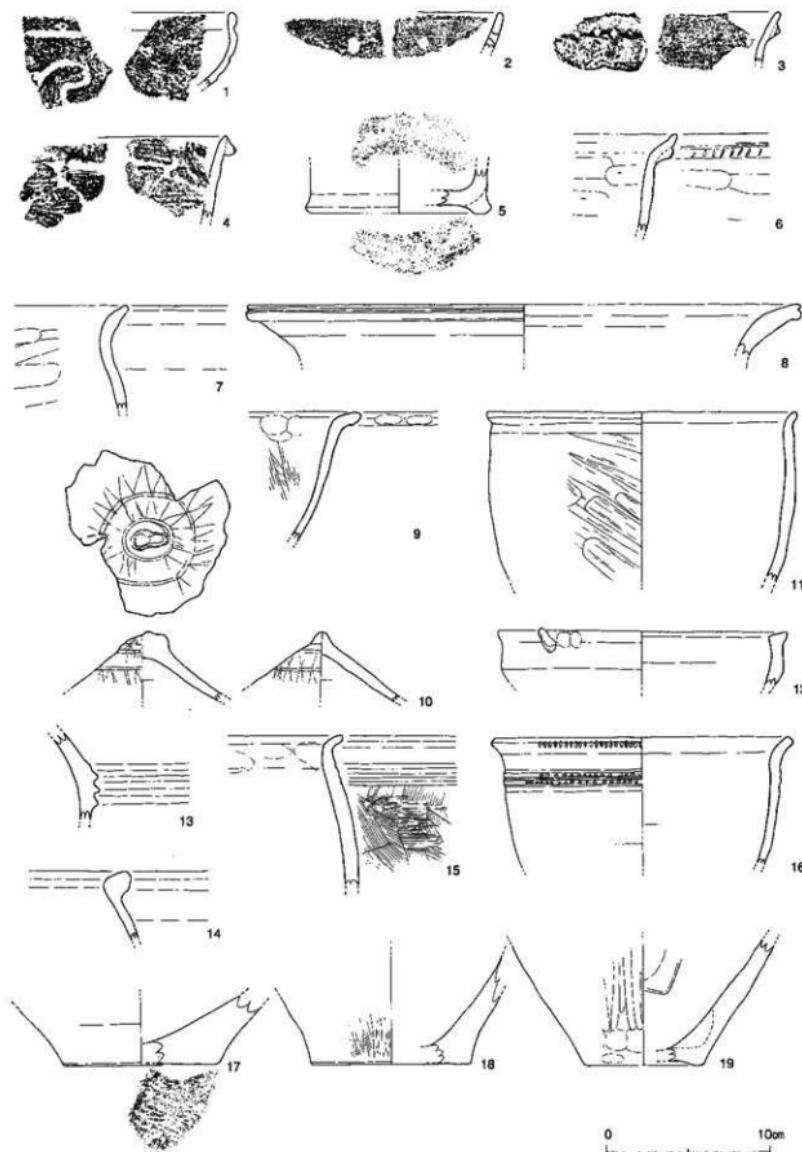
5は内面は口縁部にナデ調整、体部にヘラケズリ調整を施し、外面は口縁部にナデ調整の後指頭圧痕、体部はナデ調整の後11条の凹線を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を半坦気味にして刻目文を施す。



第154図 第③層出土遺物3

6は内外面にナデ調整を施し、外面に凹線及び刺突文を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。7は口縁部内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は内側に直線的に立ち上がり、肥厚させて外側に折り曲げる。端部には平坦面を作っている。8は口縁部内外面及び頸部外面にナデ調整を施し、頸部内面にヘラケズリ調整を施している。複合口縁を呈する口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部外面に4条の擬凹線を施している。9は複合口縁を呈する口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外方に括れ気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。10～11、13は土師器である。10は円筒埴輪で、内面に指頭圧痕を施し、外面にナデ調整を施す。体部には円形透かし及びタガを施している。11は壺の口縁部で、外面にはナデ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。13は蓋で、内外面ともにナデ調整を施す。須恵器の模倣である可能性もある。12、14、16～17は須恵器である。12は壊身の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部のかえりは、内側に伸びた後反り上がる。端部は丸く仕上げている。14は鉢の底部で、内面に回転ナデ調整を施し、外面には回転ヘラケズリ調整の後ナデ調整を施す。底部には高台を貼付しナデ調整している。内面見込には自然釉が付着する。16は壊で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を施してナデ調整している。17は壺片で、内面に車輪文、外面に平行タタキを施す。15、18は土師質土器壊である。15は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施し、外面には指頭圧痕を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。18は底部で、内面に回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼付後回転ナデ調整している。19は京都系綠釉陶器皿で、内外面ともに施釉している。口縁部は内湾気味に立ち上がり外側に屈曲する。

第153図1は白磁碗の口縁部で、内外面を施釉している。口縁部は内湾気味に立ち上がり外傾する。

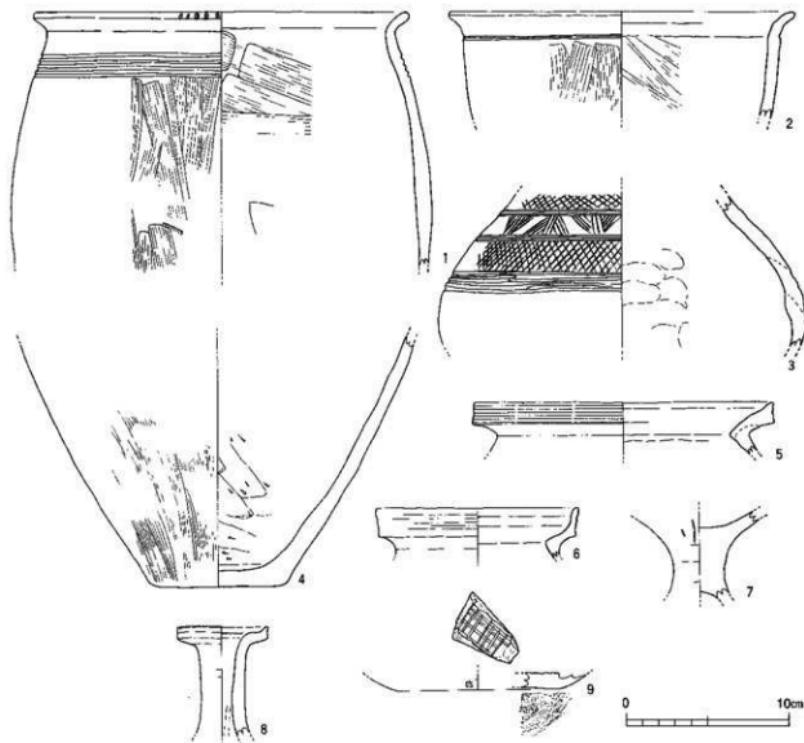


第155図 第④~⑤層出土遺物 1

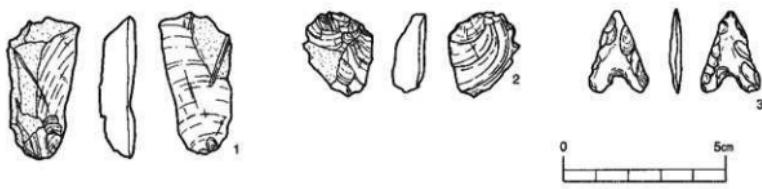
端部は尖り気味に仕上げている。2は在地土器の捏鉢または擂鉢である。内外面ともにナデ調整を施す。3、5～6は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3、5は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。5は底部に糸切痕を残す。6は外反気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。4は瓦質土器擂鉢の底部で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に擂目を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。7は青花碗で、内外面ともに施釉し染付を施している。口縁部の立ち上がりは、外反した後内湾気味に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。

第154図1～2は石器の未製品である。1は暗紫色を呈する珪質な石、2は黒曜石である。
<第④～⑤層>（第155～158図）

第155図1～5は縄文土器である。1は内外面ともにナデ調整を施し、外面には沈線を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がりやや内傾する。端部は丸く仕上げている。2は内外面ともにナデ調整を施し穿孔している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3は内面に2枚貝条痕を施し、外面にナデ調整を施す。口唇部外面には刻目突帯を施している。口縁部の立ち上がりは口唇部で外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。4は内外面に2枚貝条痕を施し、口縁部外面に刻目突帯を貼付してナデ調整している。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。5は内外面ともにナデ調整を施し、底部に高台を貼付している。6～19は弥生土器で、このうち6～9、11、14～19は壺である。6～7は口縁部内外面及び体部外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。6は口唇部外面に刻目突帯を施し、突帶上部に1条の凹線を施すことによって、器壁との界線を作っている。口縁部の立ち上がりは、口唇部で外傾し内湾気味となる。端部は尖り気味に仕上げている。7は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。8は口縁部で内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部に1条の凹線を施している。9は口縁部内外面にナデ調整及び指頭圧痕を施し、体部内面にハケ目調整、体部外面にナデ調整を施している。口縁部は口唇部で外傾し、端部を丸く仕上げている。11は口縁部内外面にナデ調整を施し、体部外面にはハケ目調整を施す。口縁部は外傾し丸く仕上げている。14は口縁部外面にナデ調整を施す。口縁部は外側に肥厚させ、端部に平坦面を作っている。15は口縁部内外面にナデ調整を施した後、内面には指頭圧痕を施す。体部外面にはハケ目調整を施し、肩部外面には3条の凹線を施す。口縁部は外傾し、端部を尖り気味に仕上げている。16は外面にナデ調整を施し、体部上側に2条の突帯を作り列点文を施している。口縁部は口唇部から外反気味に立ち上がり、端部で平坦面を作る。端部外側には刻目文が施されている。17～19は底部である。17は外面にナデ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。18は外面にハケ目調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。19は内面にヘラケズリ調整を施し、外面にヘラミガキ調整及び指頭圧痕を施す。断面及び内面に粘土の接合痕が残る。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。10は壺用蓋で、内外面ナデ調整を施した後、外面に各2条のヘラ描き沈線2組及び松葉状のヘラ描き沈線を残す。天井部には摘みを施している。12は鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、口縁部外面に指頭圧痕及び粘土塊を残す。口縁部は内傾気味に立ち上がり、端部を外方に肥厚させて平坦面にしている。13は壺の体部で、内外面ともにナデ調整を施す。外面には断面三角形の貼付突帯が施されている。因輪・伯耆からの搬入土器である可能性もある。

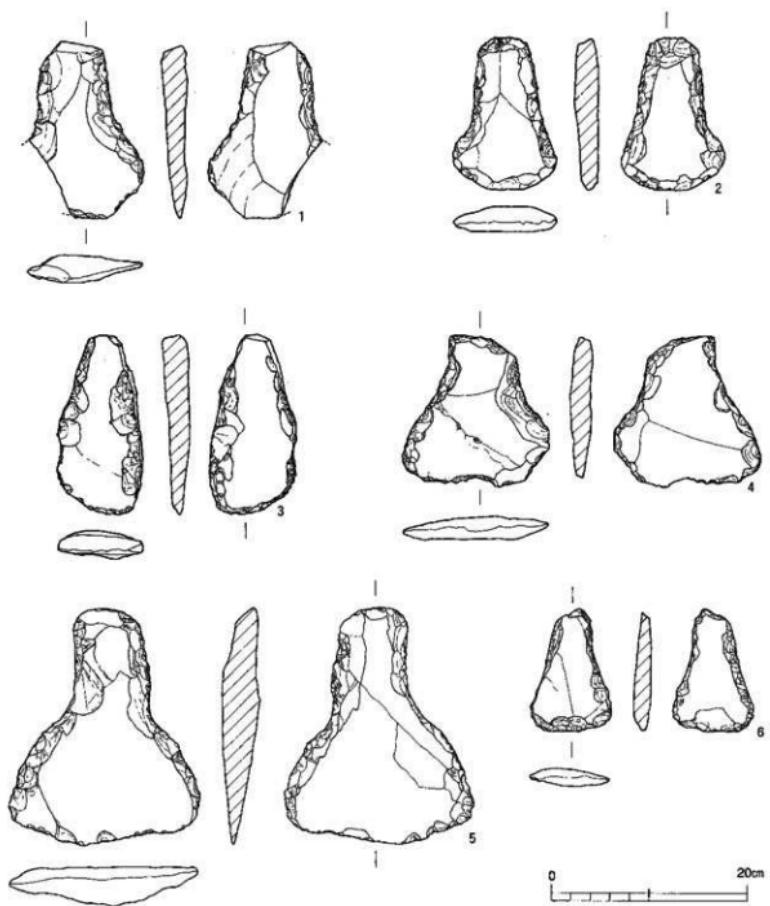


第156図 第④～⑤層出土遺物2



第157図 第④～⑤層出土遺物3

第156図1～6は弥生土器で、このうち1～2、4～6は甕である。1は口縁部内外面及び頸部外
面にナデ調整を施し、体部内外面及び頸部内面にハケ目調整を施す。肩部外面には4条の凹線が施
されている。口縁部は外傾し、端部を丸く仕上げて刻目文を施す。2は口縁部内外面にナデ調整を
施し、体部内外面にハケ目調整を施す。外面口縁部と体部の間には1条の凹線が施され界線となつ



第158図 第④～⑤層出土遺物4

ている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。4は底部で、内面にヘラケズリ調整を施し、外面にハケ目調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5～6は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。5は口縁部は外反気味に立ち上がり、上下を拡張させて端部に3条の擬凹線を施している。頸部断面に粘土の接合痕が残る。6は複合口縁を呈する口縁部の立ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3は壺の肩部から体部で、体部外面にヘラミガキ調整を施し、肩部に斜格子文、4条の凹線・羽状文が施される。7は土師器高坏で、脚部にヘラミガキ調整を施し、体部にハケ目調整を施しているものと考えられる。また内外面ともに赤彩が残り、全面に赤彩が施されていた可能性がある。8は須恵器淨瓶で、口縁部内外面及び頸部外面に回転

ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外側に水平気味に開いた後上方に突出する。端部は尖り気味に仕上げている。9は瀬戸焼卸皿の底部で、内面に御目を施し、外面には回転ナデ調整の後施釉していたものと考えられる。底部には回転糸切痕が残り、漆が付着している。

第157図1～2は石器の未製品で、黒曜石のものである。3は石鎧で、安山岩のものである。

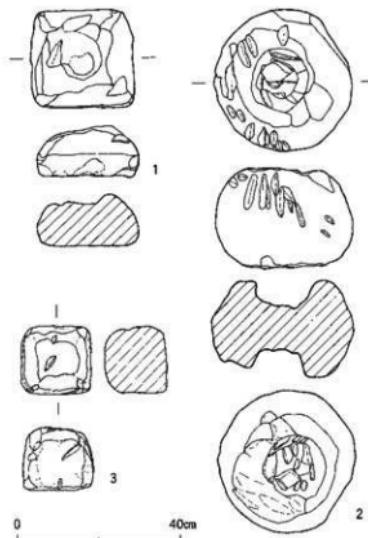
第158図1～6は石斧である。1、4は刃先を拡張させたタイプ、2、6は刃先の拡張が少なく小型のタイプ、3は綫長のタイプ、5は刃先の拡張が大きく大型のタイプである。

<その他の遺物1～2>（第159～160図）

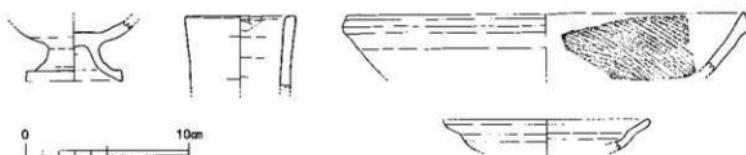
第159～160図は①～③層出土遺物及び排土中遺物である。

第159図1～2は五輪塔で、1は火輪、2は水輪である。2は肩部に工具痕が残る。3は立方体状の石製品で、用途不明のものである。

第160図1は須恵器高坏で、内面見込にナデ調整を施し、外面に回転ナデ調整を施す。脚部は中程で屈曲気味に広がり、端部で尖り気味に仕上げている。2は製塙土器で、内外面ともにナデ調整を施し、口縁部に指頭圧痕を施している。口縁部の立ち上がりは直立的であるがやや外反している。端部は平坦気味に仕上げている。3は在地土器の捕鉢で、内面に擂目を施し外面にナデ調整を施している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、やや肥厚させて、端部を尖り気味に仕上げている。4は青磁の皿で、内外面ともに施釉する。口縁部の立ち上がりは口唇部で外傾し、内湾気味に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。2次被熱の可能性がある。



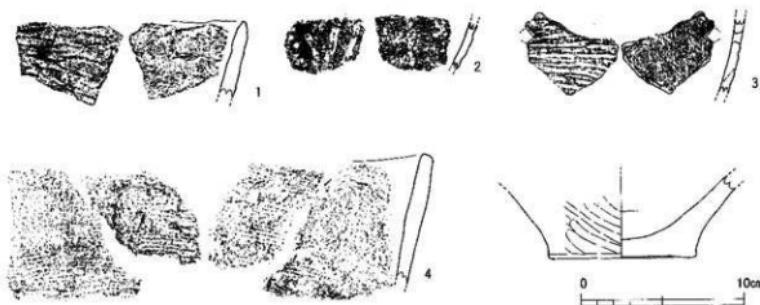
第159図 その他の出土遺物1



第160図 その他の出土遺物2

<第⑥層>（第161図）

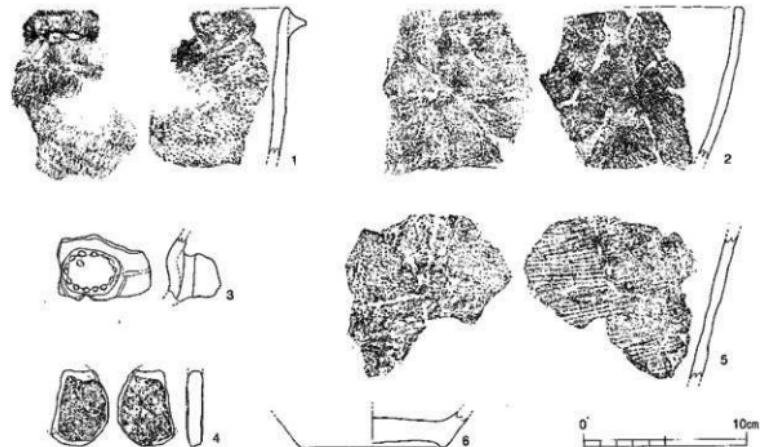
第164図1～5は繩文土器である。1は内面にヘラケズリ調整を施し、外面にヘラミガキ調整を施す。口縁部端部は尖り気味に仕上げている。2は大突起深鉢形土器の口縁部である。外面に沈線を施している。3は内面にヘラケズリ調整を施し、外面に条痕を施す。穿孔が施されている。断面には粘土の接合痕が残る。4は内外面ともに2枚貝条痕を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、



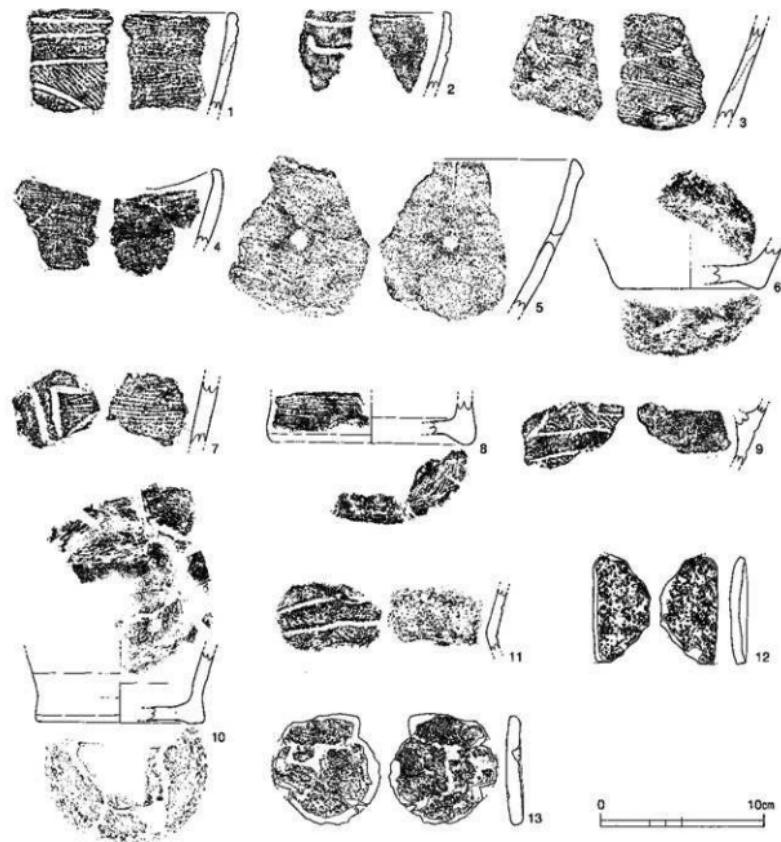
第161図 第⑥層出土遺物

端部を平坦気味に仕上げている。5は外面にヘラミガキ調整を施す。立ち上がりは外反氣味に立ち上がる。
<第⑦層>（第162～163図）

第162図1～6は縄文土器である。1は内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、口縁部外面には突帯を貼付している。2は内面にヘラケズリ調整を施し、外面にはナデ調整を施している。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。3は双耳壺の把手で、内面にナデ調整を施し、外面には磨消繩文を施している。把手には穿孔が施されている。柳浦俊一氏の五明田式の遺物と考えられる。4は内面に2枚貝条痕を施し、外面には2枚貝条痕の後ナデ調整を施している。5は土製円盤で、縄文土器片を丸く加工し円盤状にしている。6は底部で、内外面とともにナデ調整を施しているものと考えられる。外面には指頭圧痕も残る。



第162図 第⑦層出土遺物 1



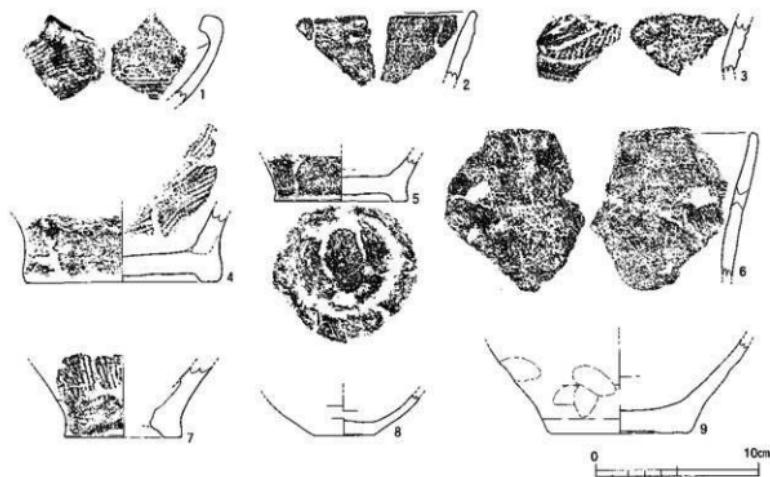
第163図 第7層出土遺物2

第163図1～13は縄文土器である。1は内面に2枚貝条痕を施し、外面に磨消縄文を施す。口縁部は内湾氣味に立ち上がり、端部を平坦氣味に仕上げている。断面に粘土の接合痕が残る。2は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。口縁部は内湾氣味に立ち上がり、端部を平坦氣味にして内側にやや突出させている。3は内外面ともに2枚貝条痕を施す。断面に粘土の接合痕が残る。4は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に2枚貝条痕を施す。口縁部は内湾氣味に立ち上がり、端部を平坦氣味にして内側にやや突出させている。5は内面及び口縁部外面にナデ調整を施し、体部外面にはヘラミガキ調整を施している。口縁部は内湾氣味に立ち上がり、やや肥厚させて端部を尖り気味に仕上げている。穿孔が施されている。6は底部で、外面にナデ調整を施した後、指頭圧痕を施している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。7は内面に2枚貝条痕を施し、外面に磨

消縄文を施す。柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。8は底部で、内外面及び底部に2枚貝条痕を残す。底部は高台している。9は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸び、内側にかえり状の痕跡を残す。口縁部に筒状のものが付くタイプで、柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。10は底部で、内面にナデ調整を施している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。11は内面にナデ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。12～13は土製円盤で、2点とも縄文土器片を丸く加工し円盤状にしている。13は表面にヘラミガキ調整の痕跡が残る。
 <その他の遺物 3～4> (第 164～165 図)

第 164～165 図は⑥層以下の出土遺物で、その大半は⑦層の出土遺物と考えられる。

第 164 図 1～6 は縄文土器である。1 は内外面ともに 2 枚貝条痕を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部に突起物を作っている。柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。2 は内外面ともにナ



第 164 図 その他の出土遺物 3

テ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3 は外面に磨消縄文を施す。4～5 は底部である。4 は内面に 2 枚貝条痕を施し、外面にナデ調整の後指頭圧痕を施す。底部は高台をしている。断面に粘土の接合痕を残す。5 は内面にナデ調整を施し、外面にヘラミガキ調整を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。底部は高台としている。6 は風化が著しいが、外面には 2 枚貝条痕が施されていた可能性がある。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内側に若干折り返す。端部は丸く仕上げている。7～9 は弥生土器である。7 は外面にハケ目調整を施し、底部付近ではナデ調整を施している。立ち上がりは外反気味に立ち



第 165 図 その他の出土遺物 4

上がり、底部は高台としている。8は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。底部に平坦面を作っている。9は風化が著しいが、外面に指頭圧痕が残る。底部に平坦面を作っている。

第165図は石器の未製品で、黒曜石のものである。

<その他の遺物5>（第169図）

第166図は⑦層上面から出土した縄文土器で、外面に2枚貝条痕が残る。口縁部端部は丸く仕上げている。



第166図 その他の出土遺物5

第3節 まとめ

調査地は築山遺跡の東端部にあたり、旧大井谷川の西岸に営まれた生活跡である。今回の調査では、中近世を中心として、奈良平安時代、古墳時代後期～終末、弥生時代後期、弥生時代前期、縄文時代後晩期と非常に幅広い時期の遺構・遺物が確認された。縄文後晩期については包含層のみの確認であったが、その他の時期については遺構も確認されている。

遺構は溝・土壙・小ピット等が大部分で、その多くが中近世の時期にあたるものである。弥生～古代にかけての遺構は非常に少ないが、弥生時代以降の基盤層が比較的高いため後世の破壊が繰り返された結果であろう。

各時期の概要は以下のとおりである。

<縄文時代後期～晩期>

遺構は確認されておらず、包含層より土器や石器が確認されるのみである。縄文時代の資料は市内では三田谷Ⅰ遺跡、保知石遺跡等でわずかに知られるのみであり貴重な資料といえる。平成15年度に実施した県道出雲三刀屋線に伴う隣接地の発掘調査では、より良好な縄文土器資料が得られており、今後の整埋が待たれる。

包含層最下部付近では埋没林が確認され、当時の環境が森林であったことがわかる。本来の生活地の位置は不明であるが、調査地南側の丘陵地もしくは丘陵谷部に存在したものであろう。

また、包含層最下部ではC14年代測定も実施しており、約3700年前から堆積した上層である事が判明している。縄文時代後期頃の実年代として矛盾ないものと考える。

<弥生時代>

縄文晩期から弥生時代前期にかけて厚い砂層の堆積がみられ、この頃に大規模な洪水等による地形の変化があったものと考えられる。

比較的地形の低い調査地東方に溝・土壙等の遺構が少量確認される。本来調査地の西方にも遺構は存在したであろうが、中世までに削平を受けたものと考えられる。

遺構と遺物は弥生前期と後期のものが確認されており、弥生中期のものは全く確認されていない。

<古墳時代後期～古代>

明確に当該時期の遺構と判断できるものは僅少で、わずかにⅡ区SK09などが挙げられる。やはり中世までに削平を受けたものであろう。遺物としては古墳時代後期後半から平安時代までの遺物が調査区全般から出土しており、当該時期に調査地周辺で生活が営まれていた事がうかがえる。古墳時代前・中期の遺物が全く出土していないことも特徴として挙げられる。

また、包含層出土遺物中には円筒埴輪や子持壺などの後期古墳関係遺物が散在しており、付近に破壊された古墳等が存在したと考えられよう。Ⅱ区SK09も墓壇である可能性があり、平成15年度に実施した県道今市古志線に伴う発掘調査でも隣接地で土壙内より奈良時代の骨蔵須恵器が確認されている。当該時期の調査地は墓域としての性格を持っていた可能性がある。

<中世>

今回の調査地において、近世とともに遺跡の中心を成す時期である。調査地西方を中心に比較的多くの溝・土壌・ピット等の遺構が確認される。ただし、遺構内からの遺物は極めて僅少で、生活の中心地であったとは考え難い。土質分析の結果、14～15世紀頃には調査地の一部でソバ栽培が行わっていた可能性が高く、耕作等に伴う遺構群としての性格も考えられよう。ただし、I区の北端部分では大形の溝や土壌が密集しており、遺構内遺物も他と比して多い。当時の生活区画の一部であろうか。

その他、近世の包含層中からではあるが、塙治氏家紋入りの漆器椀が出土しており、塙治氏関連の実物資料として注目される。

<近世>

中世に引き続き、多くの溝・土壌・ピット等の遺構が確認される。やはり遺構内からの遺物は少なく、中世と同様の性格をもった遺構群と考えられる。土質分析の結果、18世紀以降の堆積土からは稻花粉が多量に検出されており、畑作とともに水田耕作が盛行していたことがうかがえる。

以上のような調査結果から、調査地は生活の中心部ではないものの、縄文時代晩期から近世に至るまで断続的に生活空間として利用された市内では希少な遺跡であることが判明した。今回の調査では遺構に伴う遺物が非常に少なく、遺跡の性格検討としても大雑把なものにならざるを得なかつた。

しかしながら、平成15年度以降、県道出雲三刀屋線に伴う発掘調査と県道今市古志線に伴う発掘調査によって徐々に今回の調査地周辺の遺跡概要が明らかになりつつある。調査は今後も継続予定であり、遺跡中心部の実態解明を期待したい。

築山遺跡における自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

築山遺跡は島根県出雲市上塩冶町地内に立地する遺跡である。

また本報は、出雲市（出雲市文化財室）が文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した分析報告書の概報である。

分析試料について

図1に示す各地点において試料を採取した。各地点の堆積相および試料採取層準は、図2～6の花粉ダイアグラム中左側の柱状図に示すとおりである。また、No1地点において火山灰質の砂層に被われた埋没樹木をC¹⁴年代測定試料とした。No1地点の花粉分析試料は、この埋没樹木の根元より採取した腐植質粘土である。

分析方法および分析結果

(1) 花粉分析

処理は渡辺（1995）に従って行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、イネ科花粉を中村（1974）に従い、イネを含む可能性の高い大型のイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性の低い小型のイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

分析結果を図2～6の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示した。また検出数の少ない試料では、出現した種類と「*」で示した。右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉・胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

(2) C¹⁴年代測定

AMS法を用いた。測定結果を表1に示す。

花粉分帶

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料Noも下位から上位に向かって記した。

(1) IV带（No1地点試料No1）

アカガシ亜属、マツ属（複維管束亜属）が卓越し、スギ属、マキ属を特徴的に伴う。

(2) III 带 (No 3 地点試料No 4、3、No 5 地点試料No 4)

マツ属（複維管束亞属）、スギ属、アカガシ亞属、コナラ亞属が卓越する。

(3) II 带 (No 3 地点試料No 2、1、No 4 地点試料No 3、No 5 地点試料No 3、2)

マツ属（複維管束亞属）が卓越し、スギ属、アカガシ亞属、コナラ亞属を伴う。

(4) I 带 (No 4 地点試料No 1、No 5 地点試料No 1)

マツ属（複維管束亞属）が卓越し、スギ属を伴う。

各地点毎に花粉帯と堆積時期をまとめると表2の様になり、ほとんど矛盾の無い結果を示す。

近隣の花粉分析結果との比較

築山遺跡近辺の三田谷I遺跡、藤ヶ森南遺跡では、従来より花粉分析が実施・報告されている（渡辺、2000、中村・渡辺、2000、渡辺、1999。）。

各遺跡で設定された局地花粉帯と今回設定した局地花粉帯の関係は、表3のようにまとめることができる。表2から明らかなように、各遺跡間での局地花粉帯の変遷（花粉組成変遷）は、よく一致した。

古環境変遷

ここでは、諸分析結果より推定できる古環境について、花粉帯毎に述べる。

(1) IV带期（縄文時代後期：3700年前頃）

前述、三田谷I遺跡での分析結果（中村・渡辺、2000）と極めて類似した花粉組成を示した。また、 $\Delta^{14}C$ 年代、堆積相も三田谷I遺跡と類似している。三田谷I遺跡を埋めた埋没林を形成の原因となつた洪水堆積物（B層）が、丘陵を回り込んだ築山遺跡にまで至り、No 1 地点で生育していた樹木を覆い埋没林を成したと考えられる。

また、No 1 地点の分析試料は腐植質粘土であり、湿地で堆積したものであると考えられる。樹種鑑定をしていないものの埋没樹木は湿生の樹木であると考えられる。これらの樹木の根本近くには、花粉の検出できたカヤツリグサ科や、イネ科の草本が生育していたと考えられる。

さらに花粉分析結果から明らかなように、背後の丘陵にはカシ類を要素とする照葉樹林が分布したと考えられる。また、丘陵の縁辺など開けた場所にはアカマツや、ナラ類を要素とする遷移林が分布していたと考えられる。

(2) III带期（弥生時代～中世頃）

地層が薄く、断続的な花粉組成しか得られなかったことから、推定される時代幅が広がった。

No 3 地点では中世および中世～近世に堆積した層準、No 5 地点では弥生時代頃に堆積した可能性のある層準が分析対象であった。ここでは土壤化、あるいは鉄分の沈着に伴う化学変化のために花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなったと考えられる。このためイネ科（40 ミクロン以上）の出現率は高いものの、イネ科（40 ミクロン未満）や、キク科花粉、胞子の検出量も多く、この地点が水田であったか否かの判断はできなかった。ただし、No 3 地点からはソバ属花粉が検出されており、近辺で畑作が行われていた可能性は高い。

一方木本花粉では、両地点共にマツ属（複維管束亞属）、スギ属のほかアカガシ属、コナラ属が卓越傾向にあり、遺跡近辺の丘陵では、アカマツやコナラを主要要素とする遷移林（二次林あるいは「里山」）が広がり、やや離れた丘陵や中国山地縁辺にはカシ類を要素とする照葉樹林が分布していたと推定できる。また遺跡近辺の谷沿い斜面には、スギも生育していたと考えられる。

(3) II带期（近世から近代頃？）

No.4 地点では鉄分の沈着に伴う化学変化のため花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなつたと考えられる。No.3, 5 地点のいずれの試料からも充分な量の花粉化石が検出され、イネ科（40 ミクロン以上）花粉が高率で検出される。また、他の草本花粉の出現率はさほど高率にならず、水田雑草を含む種類の花粉やソバ属花粉が検出されるなど、遺跡一帯に水田が広がっていたことが推定される。

また木本花粉ではマツ属（複維管束亞属）花粉が卓越しコナラ属を伴うなど、アカマツやナラ類を主要とする「里山」が、丘陵から中國山地縁辺に分布していたことが推定できる。

(4) I带期（近・現代）

No.4 地点では鉄分の沈着に伴う化学変化のため花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなつたと考えられる。No.5 地点では充分な量の花粉化石が検出され、イネ科（40 ミクロン以上）花粉が高率で検出される。一方、II 带に比べ他の草本花粉の出現率は、水田雑草を含む種類の花粉やソバ属花粉を含め低くなる。この様な草本花粉の変遷は、農作業の近代化に伴う除草作業の徹底や、雑穀栽培が衰退し米作主体の農業に転換したことが原因であると推定される。

また木本花粉では、II 带に比べスギ花粉の増加が顕著である。このことは、近代以降特に第二次大戦後のスギ植林や、いわゆる「燃料革命」による「里山」の放棄などが主な原因であると考えられる。

まとめ

花粉分析結果から、I～IV 带の 4 局地花粉帯を設定した。さらに周辺遺跡での花粉分析結果（局地花粉帯）との比較を行い、花粉組成変遷とその表す時代との関係がよく一致することが明らかになった。

花粉分析結果を基に遺跡近辺から周辺の古植生を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

- ①埋没樹木（埋没林）は、三田谷 I 遺跡で発見された埋没林と同時期のものであり、成因も共通する可能性がある。
- ②No.3 地点では、III带期（中世）にソバ栽培が行われていたと考えられる。
- ③水田耕作が断定できるのは、No.5 地点 II带期（中～近世）以降である。

引用文献

- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として、第四紀研究、13, 187 - 197.
渡辺正巳（1995）花粉分析法、考古資料分析法、84, 85. ニュー・サイエンス社
渡辺正巳（1999）藤ヶ森南遺跡の花粉、プラント・オパール分析、出雲郵便局移転に伴う埋蔵文化

財発掘調査報告書藤ヶ森南遺跡、31 - 37、中国郵政局・出雲市教育委員会、島根県。

渡辺正巳（2000）三田谷 I 遺跡c区発掘調査に係る花粉分析、塩冶 299 号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書三田谷 I 遺跡、65 - 70、出雲市教育委員会、島根県。

中村唯史・渡辺正巳（2000）三田谷 I 遺跡の地下層序と地形発達史、斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ-三田谷 I 遺跡（Vol. 2）-、116 - 127、建設省中国地方建設局出雲工事事務所・島根県教育委員会。

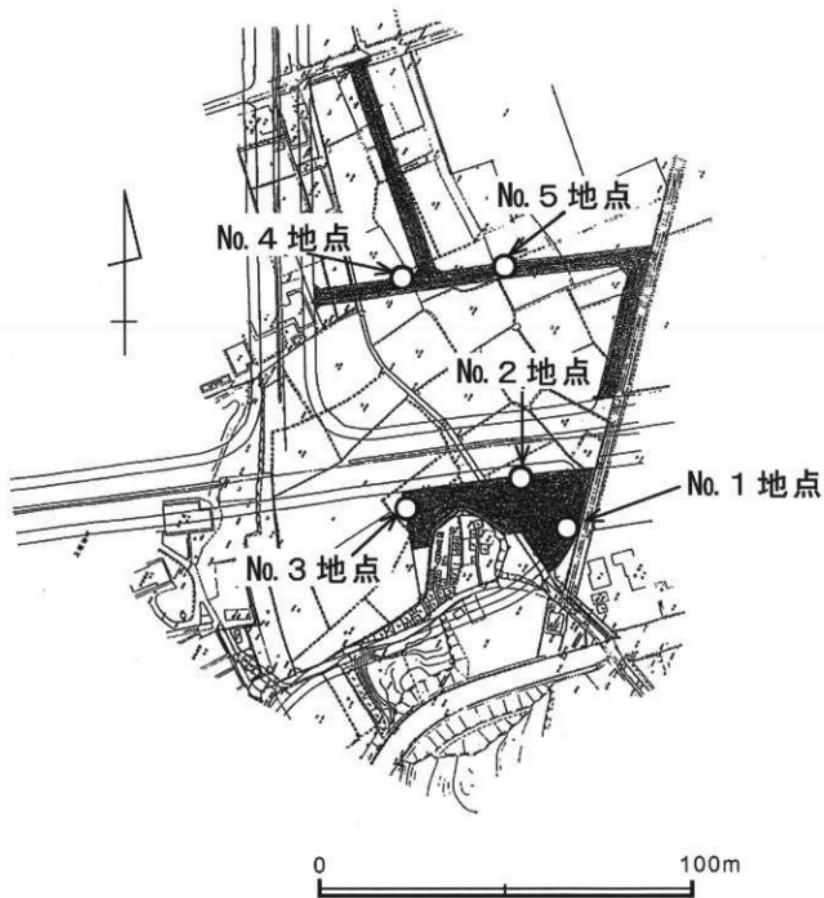
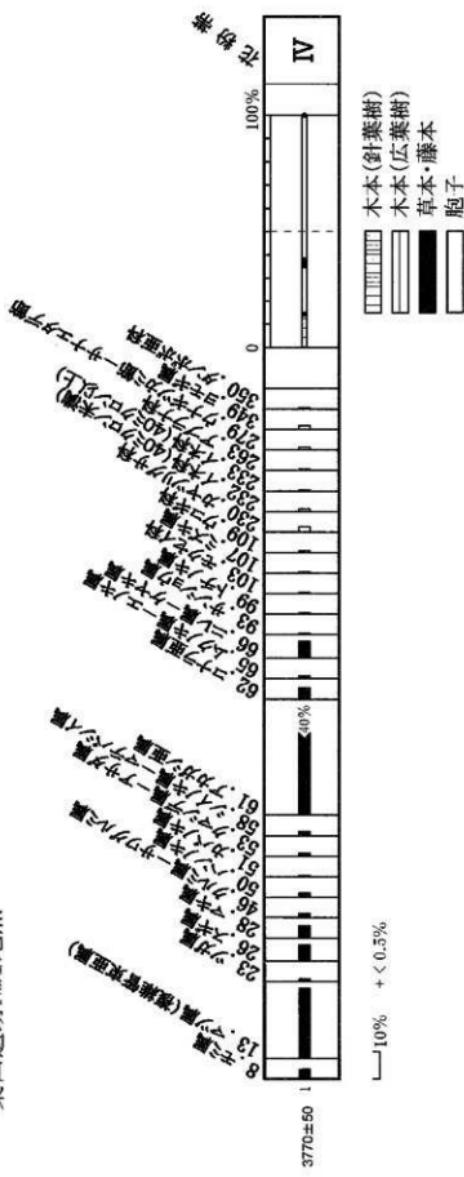


図 1 試料採取地点

築山遺跡No.1地点



築山遺跡No.2地点

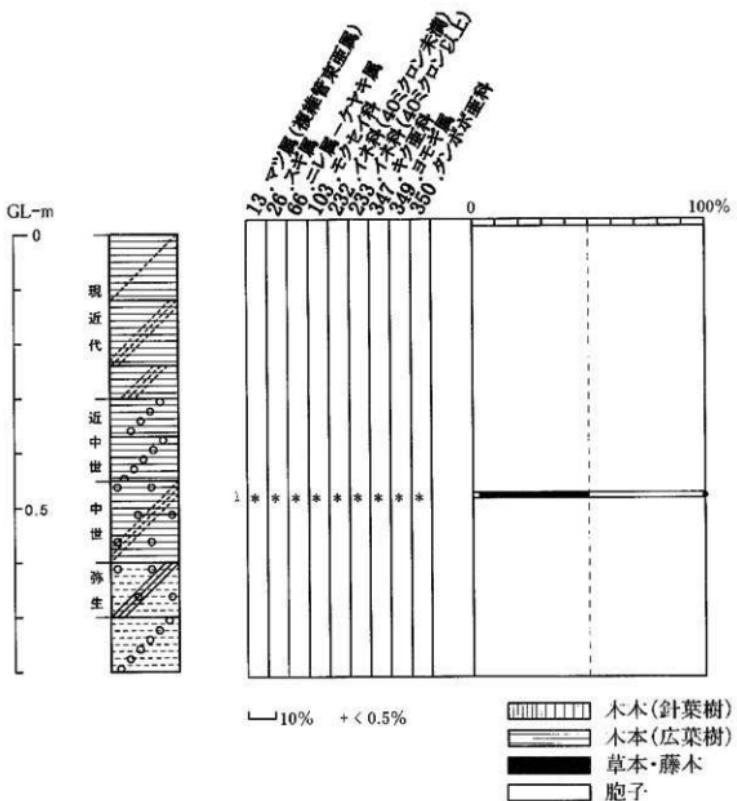


図4 第3地点の花粉ダイアグラム

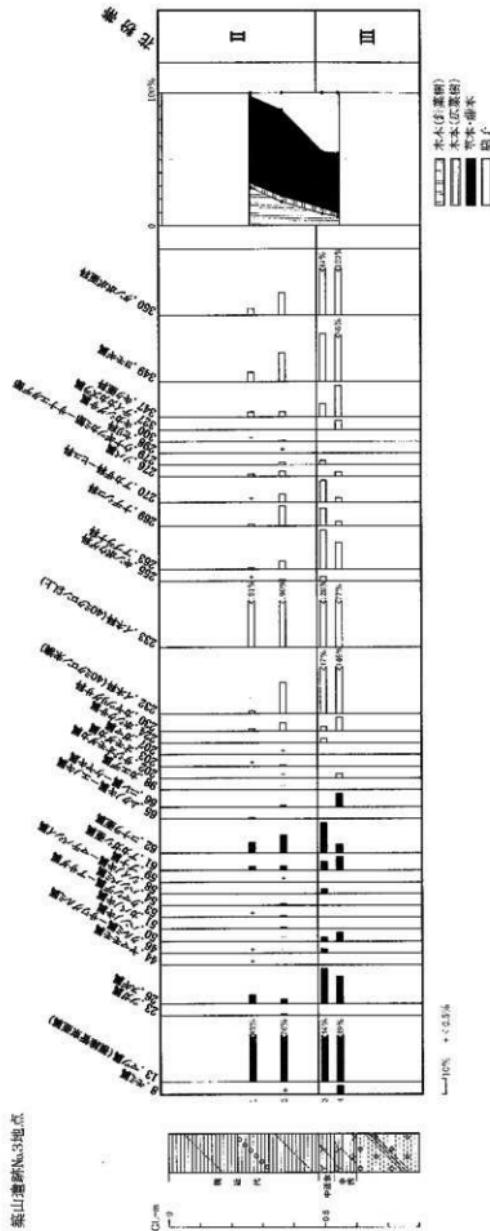
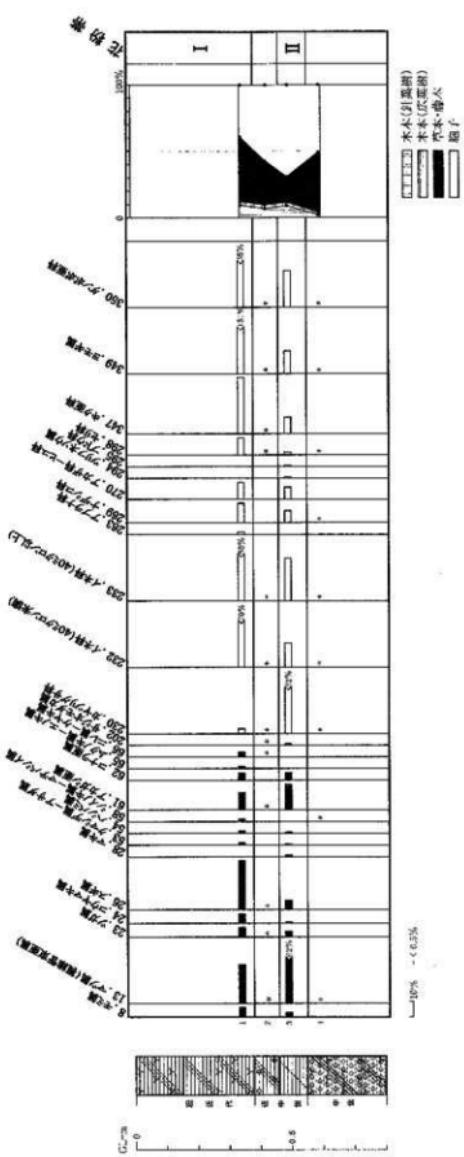
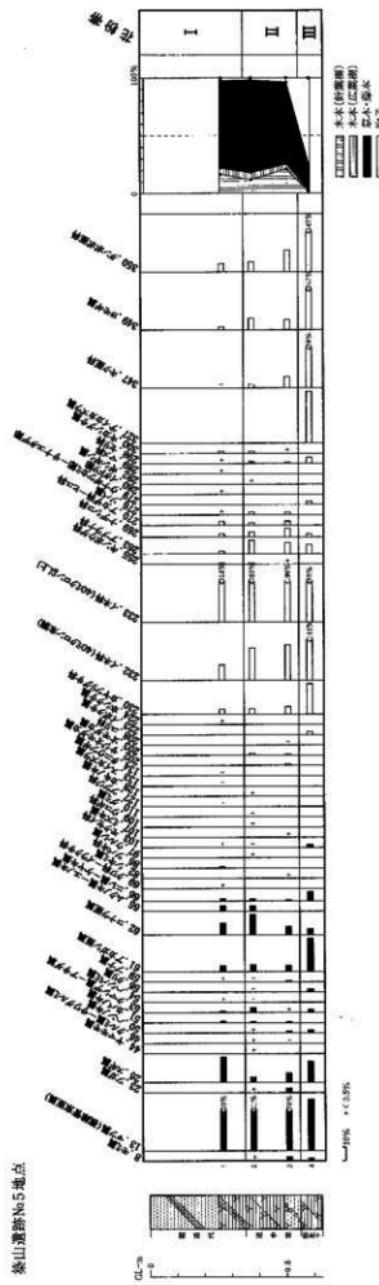


図5 第4地点の花粉ダイアグラム



泰山遺跡No.5地点



試料No.	測定年代 (vBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C (vBP)	曆年代*1 (cal y.)	測定番号 (Beta-)
IT-01	3770 ± 50	-30.0	3690 ± 50	AD2210 ~1940	179781

*1:2 sigma, 95% probability

表 1 C 年代測定結果

表 2 各調査地点での花粉帶とその時代

時 代	篠山遺跡	三 田 谷	三 田 谷	藤ヶ森 南	花 粉 帶 の 特 徴
近・現 代	I	I			マツ属(複維管束亞属)卓越・スキ付隨
近 中	II	II-a	II	II	マツ属(複維管束亞属)卓越
古 代		II-a		II	マツ属(複維管束亞属)、スキ属、アカガシ亞属、コナラ亞属が卓越
古 墳		III	III	III	(マツ属(複維管束亞属)增加、他は減少傾向)
弥 生	?				
縄文時代後期				III	アカガシ属卓越
縄文時代中期以前				N	マツ属(複維管束亞属)、スキ属、アカガシ亞属、コナラ亞属、ムクノキ属 -エノキ属、ニレ属-ヤクモ属が高率

表 3 篠山遺跡の周知花粉帶の過跡での極地花粉帶との関係

築山遺跡(1区)遺物観察表

発掘番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
99-1	SD01	弥生土器 無頸壺	不明	風化	2mmの大 砂粒多く含む	軟質	淡橙褐色～淡 黄褐色	II線下部貼付突起
-2	SD01	弥生土器壺	不明	外面:ミガキ 内面:口縁ナデ、体部ミガ キ	2~3mm大 砂粒多く含む	軟質	黄褐色	頭部境界に明瞭な 段
-3	SD04	弥生土器壺 or 壺	不明	風化	2~3mm大 砂粒多く含む	軟質	外側:暗棕褐色	
-4	SD05	弥生土器壺	不明	外面:ナデ 内面:口縁ナデ、体部ハ ケ	2~3mm大 砂粒多く含む	軟質	褐色	頭部下に直線文の 痕跡
-5	SD11	土器壺坏	口径:(11.6) 底径:(5) 器高:3	外面:強いナデ 内面:風化 底部:回転糸切	密	軟質	淡黄褐色	
-6	SD11	土器壺坏	底径:4.8	風化	密	軟質	淡橙褐色～淡 黄褐色	
-7	SD11	土器壺坏	底径:(4.6)	風化	密	軟質	淡橙褐色	
-8	SD11	土器壺小皿	口径:(7) 底径:3.8 器高:2	風化	密	軟質	淡黄褐色	
-9	SK06	土器壺坏	口径:(14.6) 底径:(7.2) 器高:3.6	外面:強いナデ 内面:強いナデ 底部:回転糸切(風化)	2mm以下の 砂粒含む	良	淡橙褐色	
-10	SK06	陶器小壺?	底径:6	全面施釉	2~3mm大 砂粒わす かに含む	良	断面:赤褐色～ 灰褐色 施釉:褐色	偏前系
-11	SK06	陶器底	不明	外面:施釉 内面:ナデ	2mm以下の 砂粒含む	良	外面:淡青灰色 内面:淡青灰色 施釉:暗褐色	中後系
-12	SK08	土器壺坏	口径:(11.8) 底径:3.2 器高:3.4	外面:強いナデ 内面:強いナデ 底部:回転糸切	密	良	赤橙褐色～褐 灰色	
-13	SK10	土器壺坏	口径:(11.2) 底径:(5.4) 器高:3	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	軟質	淡橙褐色	
-14	SK10	土器壺小皿	口径:(7.8) 底径:(4.2) 器高:1.6	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	良	淡橙褐色	
-15	SK10	土器壺小皿	口径:(6.4) 底径:(2.8) 器高:1.8	風化	密	良	淡橙褐色	
-16	SK10	土器壺坏	不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	良	淡黄褐色	
-17	SK10	土器壺小皿	底径:2.2	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:糸切	密	良	淡赤褐色	

擲出番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
-18	SK14	土師器 柱状高台皿	底径:5	外面:風化(ハケ状上凹) 内面:ナデ 底部:輪軸系切	密	良	淡赤褐色	
-19	SK14	土師器小皿	口径:7 底径:3.4 器高:2	風化 底面:わずかに糸切の痕跡	密	軟質	淡橙褐色~淡 黄褐色	
-20	SX01	漆器碗	口径:(15.2) 底径:8.4 器高:5.8	板見色漆塗(底部除く) 朱漆の接触[鈍?]】	一	一	一	炭粉洗下地、透明 漆1層 製種:ナノキ
100-1	A2Gr 包含層 5A層	弥生土器甕	不明	風化	2mm以下の 砂粒多く含む	軟質	淡黃褐色	
-2	A2Gr 包含層 5A層	弥生土器甕	不明	風化	2mm以下の 砂粒多く含む	軟質	淡黃褐色	頭部下にヘラ状工 具による区画線
-3	A2Gr 包含層 5A層	磨製石器石 斧	幅:5.8 厚:2.4	一	一	一	一	
101-1	B18Gr 包含層 5B~C層	弥生土器甕	口径:(22)	外面:風化(体部にハケの 痕跡) 内面:風化(体部にケズり の痕跡)	2mm以下の 砂粒少量含む	良	棕褐色	
-2	B24Gr 包含層 5B~C層	弥生土器甕	不明	外面:ナデ 内面:口縁ナデ、体部ケ ズリ	密	良	黄褐色	
-3	B25Gr 包含層 5C層	須恵器壺	口径:(14.8) 器高:2.2	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	暗青灰色~灰 色	輪状つまみ
-4	B15Gr 包含層 5B層	須恵器壺	底径:(3.6)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:糸切後ナデ	密	良	青灰色	
-5	B23Gr 包含層 5C層	土師器壺	口径:13.4 底径:6.2 器高:3.6	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
-6	B24Gr 包含層 5C層	土師器壺	口径:11 底径:4.8 器高:2.8	風化	密	軟質	淡橙褐色	
-7	B23Gr 包含層 5C層	土師器壺	底径:7	風化(底部糸切の痕跡)	密	良	棕褐色~褐灰 色	
-8	B24Gr 包含層 5C層	土師器皿	口径:(11) 底径:(5.6) 器高:2.4	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
-9	B24Gr 包含層 5C層	土師器小皿	口径:(7.4) 底径:4 器高:1.8	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
102-1	B17Gr 包含層 4層	弥生土器 甕	不明	風化	2mm以下の 砂粒少量含む	良	黄褐色	
-2	B12Gr 包含層 4層	弥生土器甕 or 甕	底径:(10)	風化	2~3mm大 の砂粒多く含む	軟質	棕褐色~淡黄 褐色	
-3	B14Gr 包含層 4層	須恵器壺蓋	口径:13以上	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	淡青灰色	宝珠つまみ

標図番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
-4	C8Gr 包含層 4層	須恵器蓋坏	受部径:(13)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	灰色~淡灰色	
-5	C16Gr 包含層 4層	須恵器坏	口径:(13.4)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	青灰色~暗青 灰色	
-6	C2Gr 包含層 4層	須恵器蓋?	底径:(12.4)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ナデ	密	良	淡灰色	
-7	A3Gr 包含層 4層	須恵器子持 壺子壺?	口径:(10.2)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	暗青灰色~灰 白色	同形態の子持壺子 壺が調査地西方の 篠山古墳出土
-8	C10Gr 包含層 4層	土師器坏	口径:(12.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	淡黄褐色	
-9	C5Gr 包含層 4層	土師器坏	底径:6	外面:風化 内面:ナデ 底部:四輪系切	2mm以下の 砂粒含む	良	橙褐色~暗赤 褐色	
-10	C15Gr 包含層 4層	土師器小皿	口径:(7.5) 底径:(4) 高さ:1.7	風化	密	軟質	淡黃褐色	
-11	C16Gr 包含層 4層	土師器小皿	口径:(7) 底径:3.4 高さ:1.8	外面:風化 内面:ナデ 底部:風化(糸切の痕跡)	密	良	橙褐色~褐色	
-12	C16Gr 包含層 4層	土師質土器 灯明皿	口径:(7) 底径:5 高さ:1.5	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:風化(諦止糸切?)	密	良	褐色	
-13	包含層 4層	青磁折縁皿	不明	全面施釉	密	良	断面:灰白色 施釉:乳緑色	
-14	包含層 4層	陶胎輪付碗	不明	全面施釉 模物様の朱付	密	良	断面:淡灰色 施釉:淡乳緑色	
-15	包含層 4層	灰釉陶器 花瓶?	口径:3.4	全面施釉	密	良	断面:灰白色 施釉:淡乳緑色	
-16	包含層 4層	白磁四耳壺	不明	全面施釉	密	良	断面:白色 施釉:淡白色	
-17	包含層 4層	陶器壺	不明	外面:施釉、格子タキ 内面:ナデ	2~3mm大 の砂粒含む	良	淡灰色~暗灰色 施釉:暗緑色	壺身系 12花弁のスタンプ
-18	包含層 4層	陶器擂鉢	不明	外面:ナデ 内面:ナデ、擂目	2~3mm大 の砂粒少 含む	良	灰色~淡灰色	擂目6条以上1単位
-19	包含層 4層	陶器擂鉢	不明	風化 内面:ハケ、擂目	密	軟質	淡褐色	擂目3条1単位
-20	包含層 4層	漆器小椀	口径:(8.4) 底径:4.2 高さ:3.3	外周内赤色漆塗 金属器の花輪「花輪達 紋」と見られる家紋	—	—	—	從漆波下地、外周 漆塗(朱入)等(ペンガウ 粉印)1件 漆塗
-21	包含層 4層	製塙土器	不明	風化	2mm大の砂 粒多く含む	軟質	淡黄褐色~淡 水橙褐色	

標識番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
-22	B12Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:4.5以上 厚さ:1.6	風化	2mm以下の 砂粒少含む	軟質	淡黄褐色	
23	B10Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:4.3以上 厚さ:1.3	風化	2mm以下の 砂粒少含む	軟質	淡褐褐色	
-24	B10Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:4.5 厚さ:1.5	風化	2mm以下の 砂粒少量含む	軟質	淡褐褐色	
-25	B13Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:3.5以上 厚さ:9	風化	2mm以下の 砂粒少量含む	良	赤褐色	
-26	C9Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:4.1以上 厚さ:1.5	風化	密	軟質	淡黄褐色	
-27	C5Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:4.5 厚さ:1.3	風化	2mm以下の 砂粒少含む	軟質	淡黄褐色	
-28	C9Gr 包含層 4層	管状土錐	長さ:3.7以上 厚さ:1.4	風化	2mm以下の 砂粒少量含む	軟質	淡黄褐色	
-29	C16Gr 包含層 4層	吉瓦	厚さ:2~1.5	外面:褐色 内面:布目痕 側面:端部へ向けてケズリ	2~3mm大の 砂粒含む	良	淡青灰色~灰 色	端部に沈継、板目 痕あり
-30	A5Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2mm大の砂 粒含む	良	内外面:橙色 断面:灰色	
-31	A4Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	外側:ヨコハケ 内側:風化	2mm大の砂 粒含む	良	内外面:橙色 断面:暗灰色	円形スカシ
-32	A2Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2~3mm大 の砂粒含む	軟質	黄褐色	
-33	C4Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2mm大の砂 粒含む	軟質	褐褐色	底部調整
34	B11Gr 包含層 4層	石製品?	小明	—	—	—	—	用途不明 泥岩
-35	A5Gr 包含層 4層	鉄製品	幅:1.3~0.7	—	—	—	—	用途不明 長さ14cm程度の鐵 板を屈曲させて製作
-36	B10Gr 包含層 4~5層	鉄製品 刀子?	長:3.5以上 幅:1.2	—	—	—	—	-37と同一個体?
-37	B10Gr 包含層 4~5層	鉄製品 刀子?	長:8以上 幅:1.8	—	—	—	—	-36と同一個体?
-38	A4Gr 包含層 4層	古錢	径:2.5	—	—	—	—	「元祐通寶」
-39	包含層 4層	古錢	径:2.	—	—	—	—	「開元通寶」

築山遺跡(Ⅱ区)遺物観察表

探査番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
120-1	SD12 B1Gr	弥生土器 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:(7.8)	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	2mm未満の砂 粒多量に混入	軟	外面:灰褐色 内面:淡灰褐色	
121-1	SD09 D2Gr	縄文土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:2枚貝条痕 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:暗褐色 内面:青灰色	・I系粘部に斜口文 ・表面に粘土の堆積
-2	SD09 B2Gr	弥生土器 甕	I径:不明 高さ:不明 底径:8.0	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	2mm程度の砂 粒多量に混入	やや軟	褐色	
3	SD09 C2Gr	弥生土器 甕	口径:(20.1) 高さ:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	明黄褐色	・I系部に9条以上の擬円線
-4	SD09 C2Gr	弥生土器 甕	I径:(22.2) 高さ:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:黄色	・口縁部に8条の擬凹線
124-1	SK01 A2Gr	上部質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	齊	軟	外面:暗褐色 内面:淡褐色	
125-1	SK02 B3Gr	弥生土器 甕	I径:不明 高さ:小明 底径:不明	外面:ナア 内面:ナア 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:淡黃褐色 内面:褐色	
-2	SK02 B3Gr	上部質土器 壺	口径:(8.6) 高さ:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	軟	外面:褐色 内面:明黄褐色	
-3	SK02 B3Gr	土器 壺	口径:(11.0) 高さ:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ナデ	3mm以下の砂 粒混入	軟	淡白色	
129-1	SD11 F3Gr	縄文土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:不明 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:褐色 内面:灰褐色	・口縁部外面に胡蝶 突葉貼付
-2	SD11 F3Gr	縄文土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:暗褐色 内面:淡褐色	・口縁部外面に突葉 貼付
-3	SD11 F4Gr	縄文土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:褐色 内面:明黄褐色 底部:不明	・I系部に網目文
4	SD11 F3Gr	縄文土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:灰褐色 内面:淡褐色	・I系部外面に突葉 貼付
-5	SD11 H3Gr	弥生土器	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	軟	外面:褐色 内面:暗褐色	
-6	SD11 U3Gr	弥生土器 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:(8.4)	外面:ナデ 内面:ナデ	1~3mmの砂 粒多量に混入	軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-7	SD11 H3Gr	弥生土器 甕	I径:不明 高さ:不明 底径:(7.0)	外面:不明 内面:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡黃褐色 (一部褐色斑剥色)	
-8	SD11 A2Gr	弥生土器 器台	I径:不明 高さ:不明 底径:(16.0)	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡褐色	・甕台部外面に10 条以上の擬凹線
-9	SD11 H3Gr	弥生土器 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:(9.5)	外面:ナデ 内面:不明	1~3mmの砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	

博団番号	出土地點	種 別	法 品(cm)	手 法 の 著 樹	胎 土	焼 成	色 調	備 考
126-10	SD11 A3Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:黄褐色	-外面上に1条の凹縫
-11	SD11 F4Gr	土師器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm未満の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡黃灰色 (山鱗部褐色)	
-12	SD11 H3Gr	須恵器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナガタキ、カキ口 内面:青海波 底部:不明	密	良	青灰色	
127-1	SK06 B3Gr	縄文土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:2枚貝朱痕 底部:不明	2mm以下砂 粒多量に混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:褐色	-口縁部外側に突起 貼付
128-1	SD06 D5Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	4mm以下砂 粒多量に混入	軟	外面:暗黃褐色 (一部黄褐色) 内面:青灰色	-体部外側に7条の ヘラ模様凸線文
-2	SD06 F3Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:指彌形痕 底部:不明	密	軟	外面:淡黃色 内面:灰褐色 (一部褐色)	
-3	SD06 B6Gr	須恵器 甕	口径:(17.2) 器高:不明 底径:不明	外面:円転ナデ 内面:凹転ナデ 底部:不明	密	良	外面:茶褐色 内面:灰褐色	
-4	SD06 B6Gr	須恵器 高杯	口径:不明 器高:不明 底径:(10.5)	外面:圓転ナデ 内面:凹転ナデ	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
-5	SD06 B6Gr	須恵器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	灰色	
129-1	SD15 F3Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下砂 粒多量に混入	軟	外面:褐色 内面:淡褐色	-口縁部外側に削目 突起貼付
-2	SD15 F3Gr	土師器 甕	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:暗褐色	
130-1	SD02 14Gr	壺器系陶器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:暗青灰色	-外面上の凹縫に粘 土の接合痕
-2	SD02 14Gr	在地土器模 倣	口径:不明 器高:不明 底径:(10.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	軟	外面:褐色、暗 赤褐色 内面:淡褐色	
131-1	SD01 H4Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(8.8)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下砂 粒混入	軟	淡褐色	
2	SD01 H4Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 (一部褐色) 内面:淡褐色	-口縁部端部に2条 の横凹縫
3	SD01 H4Gr	土師器 高杯	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ハナ目 底部:不明	1mm以下砂 粒混入	やや軟	褐色	
4	SD01 H4Gr	土師器 低脚杯	口径:不明 器高:不明 底径:(4.0)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ナデ	1mm以下砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡灰褐色	
5	SD01 H4Gr	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナガ目 内面:ヘラギキナヘナケズリ 底部:不明	1mm以下砂 粒混入	やや軟	外面:褐色 内面:暗褐色	

博物館番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手 法 の 特 徴	駆 士	焼 成	色 調	備 考
132-6	SD01 H4Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:小明	密	良	青灰色	
7	SD01 G4Gr	須恵器 壺	口径:(13.9) 器高:小明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	良	青灰色	
-8	SD01 G4Gr	須恵器 壺	口径:小明 器高:不明 底径:(7.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	良	暗赤橙色	・底部に高台貼付
-9	SD01 G4Gr	上部質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
133-1	SD03 F5Gr	弥生土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:小明	外面:ナデ 内面:ナデ 1mm未満の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄色 内面:明黄灰色		
-2	SD03 D6Gr	上部器 执脚壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:ナデ	2mm以下の砂粒混入	軟	淡橙色	
-3	SD03 D5Gr	土器器 壺	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:、へラケズリ、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄色 内面:黄灰色	
-4	SD03 H4Gr	上部器 円筒埴輪	口径:不明 器高:小明 底径:不明	外面:ナデ 内面:押彫压痕 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
-5	SD03 E5Gr	土器器 円筒埴輪	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:ナラミガキ、ナデ 内面:不明 底部:カット技法	3mm以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
-6	SD03 D5Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:小明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	軟	外面:橙色 内面:灰橙色	
-7	SD03 D5Gr	須恵器 長颈瓶	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:小明	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	・破片の一部はSD04から出土。 ・体部径(17.2)
133-1	SD04 G4Gr	弥生土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ、ナデ 底部:不明	2mm未満の砂粒混入	軟	外面:橙色 内面:明黄灰色	
-2	SD04 E6Gr	土器質土器 壺	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm未満の砂粒少量混入	軟	外面:淡橙色 内面:淡橙色	
134-1	SD10 C6Gr	須恵器 壺	口径:(16.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:青灰色 内面:暗青灰色	
-2	SD10 B6Gr	須恵器 壺	口径:(13.1) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:青灰色 内面:青灰色	
-3	SD10 B6Gr	須恵器 水注	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:灰褐色 内面:暗青灰色	・体部径(14.0)
-4	SD10 C6Gr	土器質土器 壺	口径:(10.8) 器高:小明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	外面:淡黄橙色 内面:淡橙色	・柱状高台付壺の可能性あり
145-1	SK11 F6Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 2mm以上砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:黑褐色 底部:不明	・口縁部外面に斜目突起貼付	

博団番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
136-1	SX01 F6Gr	須恵器 壊身	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:鼓軸ナデ、唇部丸裏、ナデ 底部:圓軸ヘラ切	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	・底部にハラ形ノリ ・底部に墨子状のヘラ型
137-1	SD08 C7Gr	須生土器 类	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡黃橙色 内面:淡褐色	・口輪部縁部に3条 の縦凹線
138-1	SD16 B9Gr	須恵器 壊	口径:(11.5) 器高:4.0 底径:(6.8)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸系切	密	良	外面:暗青灰色 (高台見込青灰色) 内面:青灰色	・底部に高台貼付
-2	SD16 B9Gr	土師質土器 壊	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:小明 内面:不明 底部:不明	密	軟	黄灰色	
140-1	SK09 B9Gr	土師器 壊	口径:12.6 器高:5.4	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ヘラケズリ	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡赤褐色	・内外面ともに赤彩 ・内面見込に敷付状 の暗文
-2	K09 B9Gr	土師器 壊	口径:12.3 器高:5.4	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ヘラケズリ	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	暗赤橙色	・内外面ともに赤彩
141-1	SD20 D8Gr	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目 内面:ナデ 底部:小明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	赤褐色 内面:褐色	・外面にタガの模合 痕
-2	SD20 C10Gr	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	褐色	・外面にタガの模合痕 ・断面に粘土の接合痕
-3	SD20 D8Gr	須恵器 壊	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	密	良	外面:黑褐色 内面:青灰色	・外面に波状文
-4	SD20 E7Gr	須恵器 壊	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗青灰色 内面:暗褐色	・外面に自然釉付兼
-5	SD20 D9Gr	土師器 高壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハラミガキ 内面:不明 底部:ハラミガキ	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	暗黃橙色 (内面見込暗褐色)	
-6	SD20 D9Gr	土師器 堅壺上器	口径:(7.6) 器高:不明 底径:不明	外面:指顎压痕 内面:指顎压痕 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	軟	淡灰褐色 内面:淡褐色	
-7	SD20 D8Gr	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(6.2)	外面:施物 内面:施物 底部:施物	密	良	外面:灰色 内面:淡青白色	・器壁と内面見込の 間に界線
-8	SD20 D9Gr	壺器系陶器 壺	口径:不明 器高:小明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm未満の砂 粒混入	良	外面:褐色 内面:淡褐色	・外面に灰被毛
-9	SD20 E7Gr	在地土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒少量混入	軟	外面:淡褐色 内面:褐灰色	・内面に擦目
-10	SD20 B10Gr	在地土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	・内面に擦目
-11	SD20 E8Gr	堅壺系陶器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:4.0	外面:施物 内面:施物 底部:施物	密	良	施物:乳茶色 露胎:露胎色(未 (圓軸系切))	・内面見込に砂目模 みの施物
-12	SD20 D8Gr	京焼風陶器	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:不明 内面:施物 底部:露胎(圓軸系切)	密	やや軟	外面:淡黄色 内面:黄白色	・施物部には食入が 入る。

探査番号	出土地点	種別	法 直(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
141-13	SD20	肥前系磁器 染付蓋	口径:(9.9) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉	密	良	黄灰色	・口縁部端部露胎 ・外曲に染付
-14	SD20 D8Gr	陶器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:擦目 底部:不明	密	良	外面:暗赤褐色 内面:赤褐色	
143-1	SD21 E7Gr	須恵器 坏身	口径:(9.5) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	
-2	SD21 E7Gr	須恵器 坏身	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	
-3	SD21 D9Gr	須恵器 裏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:不明 底部:不明	密	良	外面:黄灰色 内面:灰色	・口縁部に1条の沈線
4	SD21 C10Gr	須恵器 裏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:青海波、ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:褐色	
-5	SD21 E7Gr	須恵器 鉄鉢形?	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
6	SD21 C10Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	良	外面:青灰色 (一部暗褐色斑) 内面:青灰色	・底部に高台附付 ・器縁と内面見込の間に界線
-7	SD21 E7Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	良	外面:暗褐色 (高台内側青灰色) 内面:暗青灰色	・底部に高台附付
-8	SD21 D8Gr	云母系陶器 裏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラケズリ、ナデ 内面:指揮压痕、ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗茶色 (肩部灰色) 内面:暗褐色	・肩部外縁に灰被る
-9	SD21 D9Gr	肥前系磁器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡青白色 染付範	・外面に染付
144-1	SD29 C9Gr	弘生土器 裏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	2mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 (一部淡赤褐色) 内面:淡赤褐色	・口縁部外縁にスス付着
2	SD29 C9Gr	須恵器 坏身	口径:(12.0) 器高:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ヘラ切?	密	良	外面:青灰色 (一部褐色)	
-3	SD29 C9Gr	須恵器	口径:不明 器高:不明 底径:(9.6)	外面:不明 内面:ナデ 底部:回転ナデ	密	良	青灰色	・底部に高台附付
-4	SD29 C9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	暗褐色	
-5	SD29 C9Gr	陶器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:指揮(回転ナデ) 底部:露胎	密	良	施釉:暗褐色 露胎:淡青色 青灰色	・底部外縁ハギ
147-1	SE01 下層	須恵器 裏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:平行タキ 内面:青海波 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	・平行タキ幅広
-2	SE01 下層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:橙灰色	

検査番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手 法 の 特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
147-3	SE01 下層	土器質土器 环状は小皿	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:不明 内面:回転ナデ 底部:円転糸切	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	緑色	
149-1	A2Gr 第2層	上部器 高環	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラケズリ、ナデ 内面:回転糸痕、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒やや多く混入	やや軟	外面:淡青褐色 内面:明青灰色	・底部に円盤充填
-2	第2層	土器部 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以上の砂 粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:緑色	・外面にタガ
-3	E6Gr 第2層	須恵器 土持壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ、指削正直 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・子壺最大径(7.6)
-4	D6Gr 第2層	須恵器 蓋	口径:(13.8) 器高:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	良	外面:褐灰色 内面:褐灰色	・外側に3条の沈線
-5	G5Gr 第2層	須恵器 (はそう)	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:不明	密	良	外面:青灰色 (一部暗褐色) 内面:青灰色	・頭部外側に波状文 及び1条の沈線 ・直径(4.2)
-6	G4Gr 第2層	須恵器 (はそう)	口径:不明 器高:不明 底径:(3.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ハラ	密	良	外面:青灰色 (一部暗褐色) 内面:青灰色	・体部中央に穿孔
-7	G5Gr 第2層	須恵器 壺	口径:(15.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	軟	青灰色	
-8	E6Gr 第2層	須恵器 長颈瓶	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	・肩部外側に2条の 横線
-9	C14Gr 第2層	須恵器 环	口径:(14.6) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:褐灰色	
-10	F15Gr 第2層	須恵器 环	口径:(12.2) 器高:4.7 底径:(8.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:ナデ	密	良	外面:褐灰色 内面:青灰色	・底部に高台貼付 ・底部にヘラ状工具 痕
11	G15Gr 第2層	須恵器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	灰白色	
-12	H4Gr 第2層	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(6.1)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	施釉:青灰色 露胎:灰褐色	・底部削り出し高台 ・底辺に白釉ハギ
-13	H5Gr 第2層	土器質土器 环	土口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡青褐色	
-14	F6Gr 第2層	痕跡	口径:(10.6) 器高:2.7 底径:(6.5)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:暗青褐色 露胎:明青褐色 胎茶色	・内面足底部に小穴 ・菊花紋 ・黄入がある
-15	G4Gr 第2層	痕跡	口径:(30.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転糸痕、ヘラスリ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	暗赤褐色 (口縁部外側青 色)	・内面に1單位8条 の横目 ・奈良中世5期a
-16	D6Gr 第2層	偏筋燒 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ 内面:青褐色	密	良	外面:暗青褐色 (一部暗褐色)	
17	H3Gr 第2層	白磁 壺	口径:(10.8) 器高:2.8 底径:(4.0)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	乳黃白色	・底部削り出し高台

辨別番号	出土地点	種 別	法 番(cm)	手 法 の 特 徴	胎 上	焼 成	色 調	備 考
144-8	E7Gr 第2層	陶質系陶器	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:薄胎 内面:施釉 底部:薄胎	密	良	施釉:暗青緑色 胎:深灰色	・底部削切出し高台 ・内面見込み及び高台疊 付に筋土目及び模様
-19	D6Gr 第2層	土師質土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:四軒糸切	密	軟	外面:褐色 内面:やや暗い 褐色	・外面部壁及び底 部の界線が明瞭
-20	D9Gr 第2層	陶胎染付 塊	口径:不明 器高:小不明 底径:(4.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	外面:暗灰褐色 内面:黄緑色	・高台疊付露胎 ・高台見込を透かす ・外側に染付
-21	D9Gr 第2層	陶器 捏鉢か擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	暗赤褐色 (上縁部外面赤 褐色)	
-22	D9Gr 第2層	布志名焼 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:露胎(回転ナデ) 底部:不明	密	良	施釉:乳緑色 淡乳緑色 露胎:黄褐色	
152-1	E3Gr 第3層	绳文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm未満の砂 粒多量に混入	軟	外面:淡灰褐色 内面:明黄褐色	・口縁部外面に刻目 突起
-2	E4Gr 第3層	绳文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:褐色 内面:暗黄褐色	
-3	C6Gr 第3層	绳文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ 内面:ヘラケズリ 底部:不明	3mm以下の砂 粒混入	軟	外面:暗褐色 内面:灰褐色	
-4	E3Gr 第3層	弥生土器 壳	口径:(27.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	灰褐色 (一部淡橙色、 黒褐色)	・肩部外面に数条の 凹線
-5	E3Gr 第3層	弥生土器 要	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:横頭圧痕、ナデ 内面:ヘラケズリ、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 (一部褐色) 内面:灰褐色	・体部に11条の門脇 ・口縁部溶附に刻目文
6	C6Gr 第3層	弥生土器 壳	口径:(23.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:黄褐色 内面:淡黄褐色	・外面に凹線及び刺 突文
-7	C8Gr 第3層	弥生土器 要	口径:(22.1) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	灰褐色 (外面一部暗褐色 灰色)	
-8	D2Gr 第3層	弥生土器 要	口径:(13.0) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:褐色 (底部一部淡黄色)	・口縁部外面に4条 の擬凹線
-9	B2Gr 第3層	弥生土器 壳	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡赤褐色 (一部黄褐色)	
-10	H3Gr 第3層	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:横頭圧痕 底部:不明	3mm以下の砂 粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:褐色	・体部外側に円形透 かし及びタガ
-11	C3Gr 第3層	土師器 壳	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	明灰褐色	
-12	G3Gr 第3層	須恵器 环身	口径:(13.0) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	
-13	G4Gr 第3層	土師器 蓋	口径:不明 器高:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	1mm以下の砂 粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:灰褐色	・須恵器の模倣?

探査番号	出土地點	種別	法量(cm)	手法の特徴	施土	焼成	色調	備考
152-14	C2Gr 第3層	須恵器 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(12.5)	外面:回転ヘラ、ナデ 内面:回転ナデ 底部:ナデ	2mm以下の砂 粒混入	良	外面:青灰色 内面:灰褐色	・底部に高台貼付 ・内面見込み自然着付済
-15	A1Gr 第3層	土師質土器 壺	口径:(16.5) 器高:不明 底径:不明	外面:指彫り抜、ナデ 内面:ナデ	3mm以下の砂 粒混入	軟	外面:暗褐色 内面:褐色 底部:不明	
-16	C6Gr 第3層	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(9.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:ナデ	密	良	外面:暗青灰色 内面:青灰色	・底部に高台
-17	B2Gr 第3層	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:平行タキ 内面:車輪文 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
-18	B6Gr 第3層	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.5)	外面:不明 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1mm以下の砂 粒少量混入	軟	褐色 (高台内黄灰色)	・底部に高台貼付
-19	D15Gr 第3層	須恵器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	暗褐色	
153-1	H4Gr 第3層	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	黄灰色	
-2	C8Gr 第3層	在土器 埋鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(10.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:暗褐色 (底部褐色) 内面:深褐色	
3	D15Gr 第3層	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	0.5mm程度の 砂粒少量混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:褐色 (一部暗褐色)	
-4	H2Gr 第3層	瓦質土器 壺鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	密	軟	外面:黒褐色 内面:黄灰色	・内面に擦目
-5	B6Gr 第3層	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.7)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	深褐色	
6	A1Gr 第3層	土師質土器 壺	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:系切痕	密	軟	深褐色	
-7	H4Gr 第3層	青花 繪付碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	灰色	・内外面に擦付
155-1	C5Gr 第4~5層	繩文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm未満の砂 粒多量に混入	軟	外面:暗褐色 (一部暗褐色) 内面:暗茶色	・外面に沈澱
-2	B10Gr 第4~5層	繩文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少量混入	軟	外面:深褐色 内面:暗灰色	・縁部に穿孔
-3	F3Gr 第4~5層	繩文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2mm未満の砂 粒多量に混入	軟	外面:明褐色 内面:暗褐色 (一部暗褐色)	・口唇部外側に擦目 擦帶
-4	B3Gr 第4~5層	繩文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄灰色 内面:暗灰色	・口唇部外側に擦目 擦帶
-5	E5Gr 第4~5層	繩文土器	口径:不明 器高:不明 底径:(10.7)	外面:ナデ 内面:ナデ	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:淡赤褐色 内面:黄灰色 (一部暗褐色)	・底部に高台貼付

標印番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
155-6	B9Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ハラケズリ、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:淡褐色	・口部外側に削り文 ・腹部上部に1条の凹縫
7	F4Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ハラケズリ、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:灰褐色 (一部暗褐色)	
-8	B3Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:(34.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	淡褐色	・II段部端部に1条 の凹縫
-9	B7Gr 第4~5層	弥生土器甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ 内面:ハケ目、指頭圧痕、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 (一部橙色) 内面:淡褐色	
-10	A3Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:褐灰色 (一部灰褐色) 内面:灰褐色	・外縫に各2条のへ リ形凹縫 ・外縫に長窓状のへ リ形凹縫 ・大井町に出土
-11	D3Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:(18.9) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	胎淡褐色 (一部暗褐色)	
12	C3Gr 第4~5層	弥生土器 鉢	口径:(17.8) 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入 内面:暗灰色	やや軟	外面:暗褐色 (一部褐色)	・口部外側に胎上 塊
-13	C7Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	口径:不明 外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:明褐色 付突起	・全体外縫に断面三 角形の點 ・因縫、竹書かわの 嵌入土器?
-14	G5Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:暗褐色 内面:明褐色	
-15	A2Gr 第4~5層	弥生土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:指頭圧痕、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:明褐色 (一部暗褐色) 内面:暗灰色	・肩部外縫に3条の 凹縫
16	E3Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:(17.9) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:胎褐色 (一部暗褐色) 内面:胎褐色	・全体上部に2条の 突筋及び列点文 ・口部端部外縫に胎 目文
-17	H4Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(9.4)	口径:不明 内面:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:暗褐色	
-18	B7Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(9.7)	外面:ハケ目 内面:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:褐色 内面:暗褐色	
-19	B4Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(7.3)	外面:ヘラギキ、指頭圧痕 内面:ハラケズリ	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:褐色 内面:暗褐色	・断面及び内面に胎 上の複合痕
156-1	排水溝 第4~5層	弥生土器 甕	口径:(23.0) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:褐灰色 内面:暗褐色	・肩部外縫に4条の凹縫 ・口部端部に削り文
-2	B9Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:(20.9) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:灰褐色 (一部暗褐色)	・外縫1辺部と全体 の間に1条の凹縫
-3	F1Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラギキ 内面:不明 底部:不明	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	褐色 (一部暗褐色)	・体径(22.5) ・肩部に斜格子文、 4条の凹縫、羽状文
-4	D3Gr 第4~5層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:8.0	外面:ハケ目 内面:ハラケズリ	3mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	黃褐色 (一部暗褐色)	

井戸番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
156-5	G5Gr 第4~5層	弦生土器 甕	口径:(18.3) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	やや軟	淡黄褐色	・II様部堆積に3条の腹凹線 ・頸部断面に粘土の接合痕
-6	B8Gr 第4~5層	弦生土器 甕	口径:(16.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒や多く混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:淡黄褐色	
-7	B4Gr 第4~5層	十郎器 高坏	D径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハリ目、ヘラミガキ 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:明黄褐色 内面:淡黄褐色	・内外面に赤彩
-8	排水溝 第4~5層	須恵器 淨板	口径:5.5 器高:不明 底径:不明	外面:同軸ナデ 内面:同軸ナデ、ナデ 底部:不明	審	良	褐色 (一部暗褐色)	
-9	H4Gr 第4~5層	無戸焼 脚風	D径:不明 器高:不明 底径:(10.3)	外面:施釉 内面:御目 底部:轟胎(同軸糾切)	審	良	外面:藍灰色 内面:明黄褐色 ・底部に擦付着	
160-1	排水溝	須恵器 高坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.9)	外面:圓軸ナデ 内面:ナデ 底部:圓軸ナデ	審	良	青灰色 (一部暗青灰色)	
-2	E13Gr 表土	土郎器 梁塙土器	D径:(6.6) 器高:小明 底径:不明	外面:ナデ 内面:指標圧痕、ナデ 底部:不明	審	やや軟	外面:暗灰色 内面:淡褐色	
-3	排水溝	在地土器 鋸歯	D径:(24.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	審	軟	黄褐色 (河西一部淡赤褐色)	・内面に擦目
-4	C15Gr 表土	青磁瓶	口径:(12.6) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	審	良	乳白色	・2次被熱の可能性 あり
164-1	C4Gr 第6層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ 底部:不明	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:橙色 内面:灰褐色 (一部淡褐色)	
-2	C8Gr 第6層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:青褐色 (一部橙色)	・大穴起深鉢形土器
-3	E3Gr 第6層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:ヘラケズリ 底部:小明	2mm以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗灰褐色 内面:灰褐色 ・穿孔あり	
-4	D4Gr 第6層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:2枚貝条痕 底部:不明	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:黃褐色 (一部暗灰褐色) 内面:灰褐色	
-5	C9Gr 第6層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:8.8	外面:ヘラミガキ 内面:不明	4mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:赤褐色 内面:淡褐色	
162-1	D4Gr 砂輪下ビット	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	やや軟	外面:橙灰色 内面:灰褐色 ・口縁部外側に突帯 附付	
-2	D4Gr 6層下ビット	縄文土器	D径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ 底部:不明	2mm未満の砂粒混入	やや軟	外面:微色 内面:附黄褐色	
3	C4Gr 第7層	縄文土器 双耳壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削縞文 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:明灰褐色 ・把手に穿孔 ・五明田式	
-4	D3Gr 第7層	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:暗黄色 (一部淡褐色)	

標図番号	出土地点	種別	法 量(cm)	手 法 の 特 級	拾 上	施 成	色 調	備 考
162-6	F5Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:(8.8)	外面:指腹圧痕、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:黄灰色	
163-1	F4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:黄褐色 内面:暗黄褐色	・断面に粘土の接合痕
-2	D3Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:ヘラミガキ 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:黄灰色 内面:暗灰色	
-3	E3Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:ヘラミガキ 底部:不明	1cm以下の砂粒多量に混入	軟	外向:淡褐色 内面:黑褐色	・断面に粘土の接合痕
-4	F4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:ヘラミガキ 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:褐色 (口縁部暗褐色)	
-5	D3Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	黄褐色 (口縁部暗褐色)	・穿孔あり
-6	D3Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:(8.4)	外面:磨削模文 内面:不明	4mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:明黄灰色 (底面灰褐色) 内面:褐色	
-7	C9Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:豊灰色 (一部褐色) 内面:明黄灰色	・五明田式
-8	C8Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:(12.1)	外面:2枚貝条痕 内面:2枚貝条痕 底部:2枚貝条痕	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:灰褐色 (一部褐色) 内面:暗灰色	・底部高台
-9	C8Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:ヘラミガキ 底部:不明	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:豊灰色 内面:暗黃褐色	・五明田式
-10	C8Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:10.2	外面:本明 内面:ナデ	4mm以下の砂粒多量に混入	軟	外向:淡褐色 内面:淡褐色	
-11	C7Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:ナデ 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:褐色 内面:淡黃褐色	
-1		縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:2枚貝条痕 底部:不明	2cm以下の砂粒混入	やや軟	外向:淡褐色 内面:褐色	・端部に突起物 ・五明田式
-2	D4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:褐色 内面:黄褐色 (一部暗褐色)	
-3	C9Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨削模文 内面:不明 底部:不明	2cm以下の砂粒多量に混入	軟	外向:褐色 (一部明黃褐色) 内面:明黃灰色	
-4	D4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:(11.7)	外面:指腹圧痕、ナデ 内面:2枚貝条痕	2cm以下の砂粒多量に混入	軟	外向:淡褐色 内面:暗褐色 (一部褐色)	・底部高台 ・断面に粘土の接合痕
-5	D4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:8.0	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外向:暗褐色 内面:灰褐色 (一部暗褐色)	・底部高台
-6	C4Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	灰褐色	

検査番号	出土地点	種別	法 尺(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	燒 成	色 調	備 考
164-7	D4Gr	弦纹土器	口径:不明 器高:不明 底径:(7.1)	外面:ハケ口、ナメ 内面:不明 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:暗黄褐色	-底部点白
-8	D3Gr	弦纹土器	口径:不明 器高:不明 底径:3.6	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:青灰色 内面:明灰褐色	
-9	D4Gr	弦纹土器	口径:不明 器高:不明 底径:8.4	外面:指顎付痕 内面:不明	3mm以下の砂 粒に混入	軟	黄褐色 一部褐色(外) 當開包露褐色(内)	
166-1	C4Gr	绳文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:2枚貝条痕 内面:不明 底部:不明	2mm未満の砂 粒混入	軟	灰褐色 (一部黄褐色化)	

築山遺跡(Ⅱ区)遺物観察表2

博団番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	備 考
125-13	SD11 F4Gr	石製品 斧	縦長:13.0 横幅:11.2 厚さ:1.9	・重量330g
129-3	SD19 F3Gr	石未製品 赤瑪瑙	縦長:5.4 横幅:3.2 厚さ:1.6	
132-5	SD03	石製品 斧	縦長:12.3 横幅:8.5 厚さ:1.6	
134-5	SD10	石未製品 赤瑪瑙	縦長:2.6 横幅:2.2 厚さ:0.4	
136-2	SX01	石製品 瓦輪塔 木輪	横幅:25.5 高さ:16.8	
-3	SX01	石製品 五輪塔	横幅:33.4 高さ:23.8	
142-1	SD20	石製品 宝(ふくろ)印塘 萬葉	横幅:30.1 高さ:28.0	
143-6	SD29 C9Gr	石木製品 青瑪瑙	縦長:6.8 横幅:5.5 厚さ:3.3	
149-23	I4Gr 第2層	土製品	残存長:4.0 残存幅:5.6 厚さ:1.6	・全面に多量の朽苔痕
-24	D5Gr 第2層	土製品 羽L1	残存長:2.3 残存幅:5.4	
150-1	A1Gr 第2層	石製品 延石	残存長:7.1 横幅:6.5 厚さ:5.1	・重量370g ・使用面3面
-2	E8Gr 第2層	鉄製品 釘	縦長:5.7 横幅:0.5 厚さ:0.5	・斜削し字
-3	E8Gr 第2層	鉄製品 釘	縦長:0.65 横幅:0.65	・斜削T字
151-1	G4Gr 第2層	石未製品 黒曜石?	縦長:2.8 横幅:2.3 厚さ:1.2	・黒曜石に酷似した石材
-2	E6Gr 第2層	石未製品 黒曜石	縦長:3.0 横幅:2.0 厚さ:1.4	・重量5g
-3	C14Gr 第2層	木製品 水晶	縦長:3.0 横幅:2.0 厚さ:1.4	
154-1	C7Gr 第3層	石未製品	縦長:3.9 横幅:2.4 厚さ:0.9	・織紫色を呈する珍重な石
-2	A2Gr 第3層	石木製品 黒曜石	縦長:2.2 横幅:2.3 厚さ:1.6	

件名番号	出土地点	種別	法量(cm)	備考
157-1	F5Gr 第4層	石朱製品 黒曜石	縦長:4.3 横幅:2.2 厚さ:1.1	
-2	C7Gr 第4層	石木製品 黒曜石	縦長:2.5 横幅:2.1 厚さ:0.9	
-3	B3Gr 第4層	石製品 斧	縦長:2.5 横幅:1.8 厚さ:0.3	・安山岩
158-1	B5Gr 第4層	石製品 斧	縦長:17.1 残存幅:11.9 厚さ:2.7	・重量550g ・安山岩
-2	C3Gr 第4層	石製品 斧	縦長:15.7 横幅:10.6 厚さ:2.5	・安山岩
-3	B3Gr 第4層	石製品 斧	縦長:18.4 横幅:8.8 厚さ:2.8	・重量550g ・安山岩
-4	B3Gr 第4層	石製品 斧	縦長:15.6 横幅:15.0 厚さ:2.4	・重量550g ・安山岩
-5	C3Gr 第4層	石製品 斧	縦長:24.3 横幅:19.5 厚さ:3.9	・重量1450g ・安山岩
-6	出土地不明	石製品 斧	縦長:12.6 横幅:8.4 厚さ:1.7	・重量185g ・安山岩
159-1	D10Gr	石製品 五輪塔 火輪	横幅:24.7 高さ:12.6	
-2	G5Gr	石製品 五輪塔 水輪	横幅:33.4 高さ:24.6	・肩部の工具痕
-3	F7Gr	石製品	縦長:16.6 横幅:19.9 高さ:15.4	・用途不明
162-5	第7層	土製品 円盤	残存長:4.7 残存幅:3.4 厚さ:1.0	・縄文土器片を加工
163-12	C8Gr 第7層	土製品 円盤	残存長:16.6 残存幅:3.5 厚さ:1.1	・縄文土器片を加工
13	C8Gr 第7層	土製品 円盤	縦長:16.8 横幅:6.7 厚さ:1.1	・縄文土器片を加工
165-1	D4Gr	石木製品 黒曜石	縦長:1.6 横幅:2.1 高さ:0.9	・重量2g

築山遺跡 I 区 図 版

図版 38



I-A区完掘状況(南より)



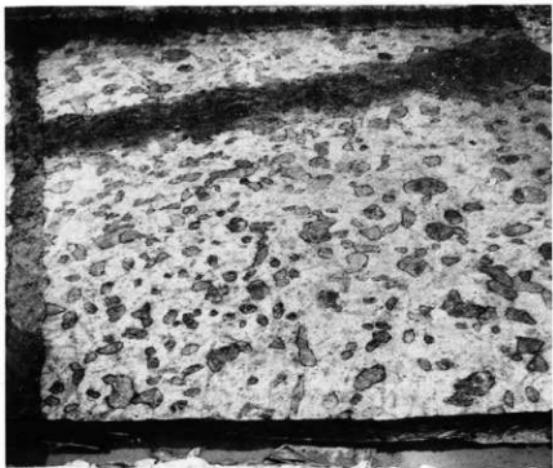
I-B区完掘状況(西より)



I-C区完掘状況1(北より)



I-C区完掘状況2(北より)



SD23周辺小ピット群検出状況(東より)



SA01(北より)



SD19~21(北より)



SD04・05(西より)

図版 40



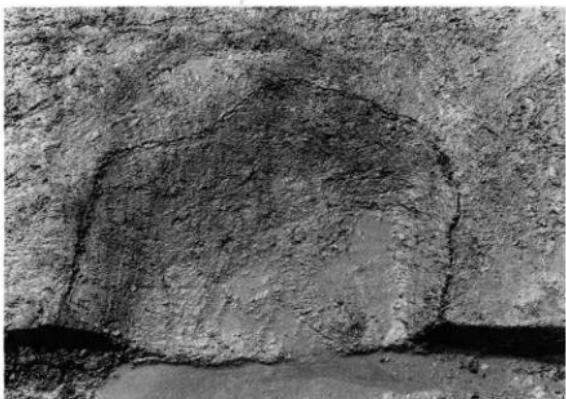
SD01(東より)



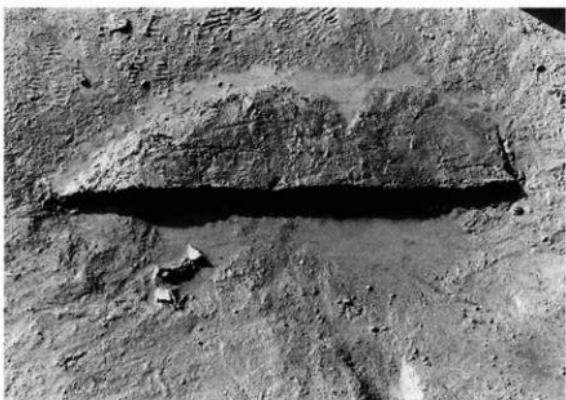
SD08~11(東より)



SD12~15(北より)



SK01

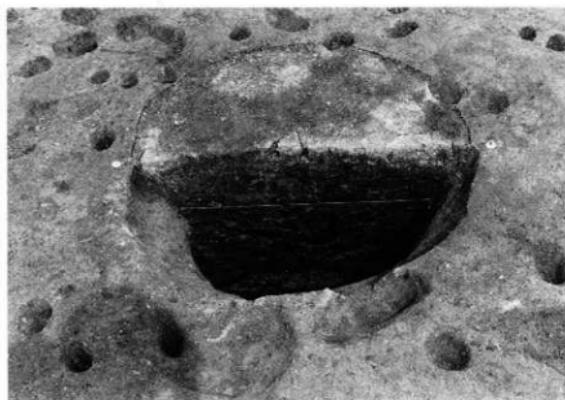


SK06

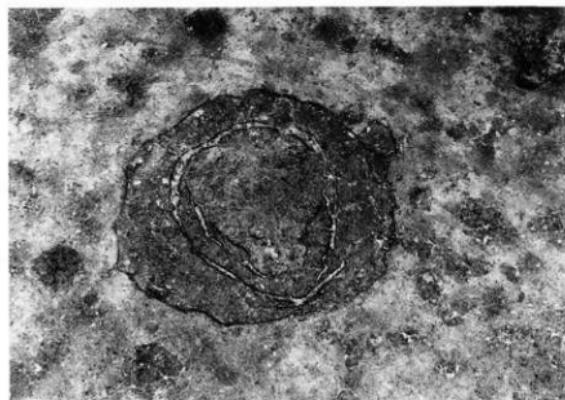


SK03

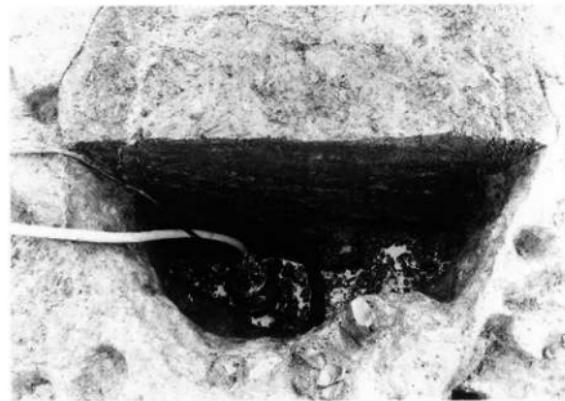
図版 42



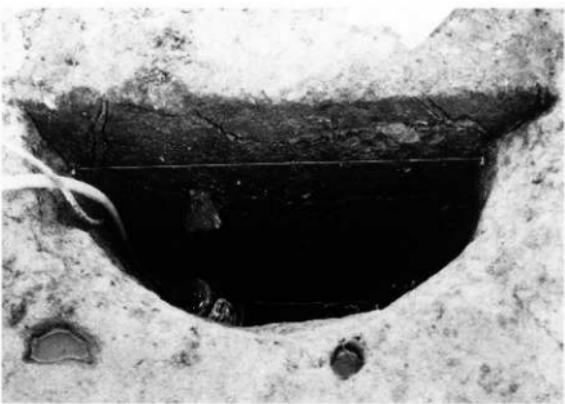
SK04



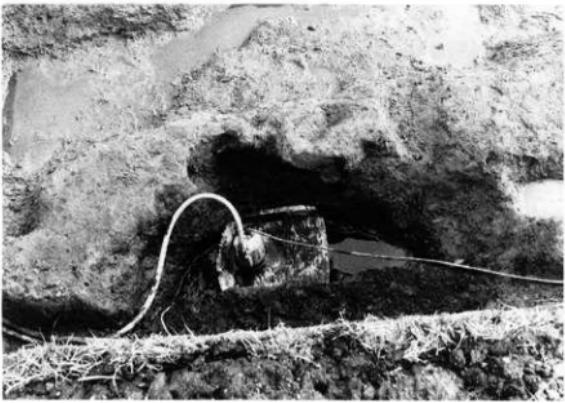
SK08-1



SK08-2



SK09



SK16



SK10~12

图版 44



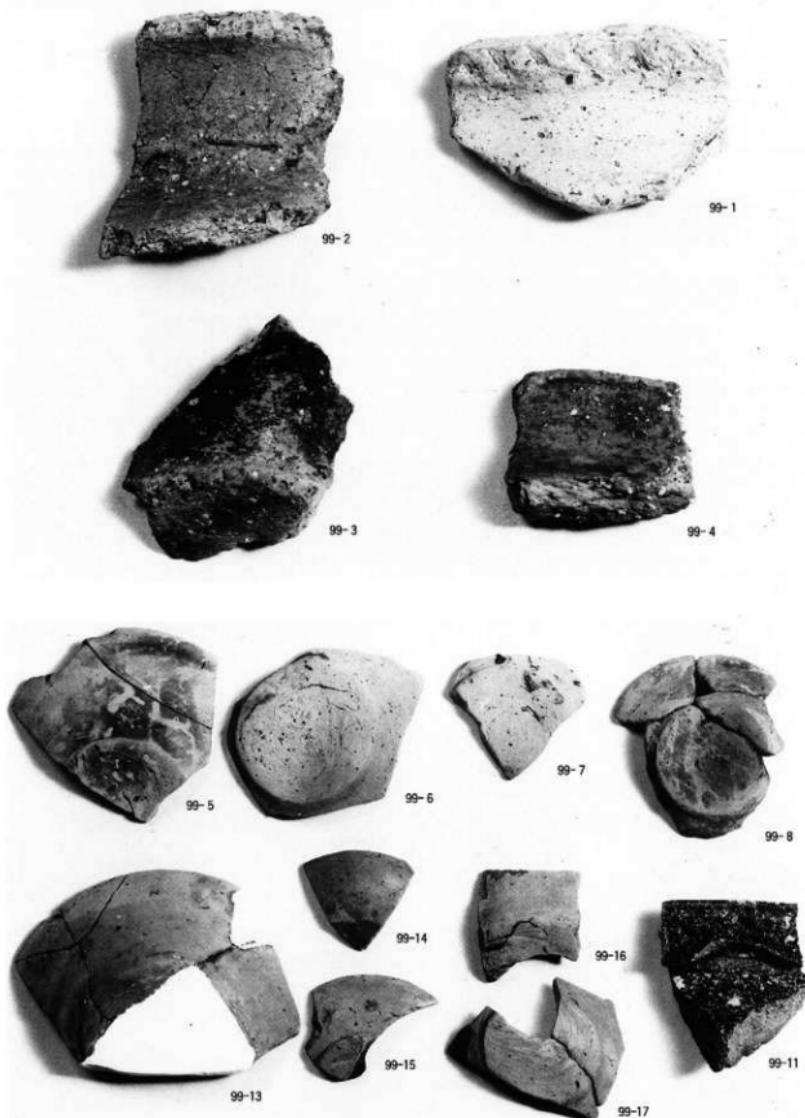
SX01



SX01层出土状况



SX01漆器出土状况



遺構内出土遺物 1

図版 46

SK06



SK08



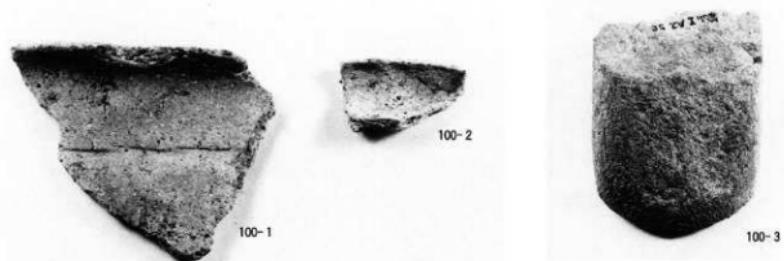
SK14



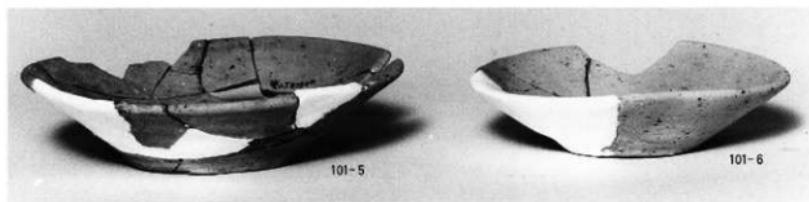
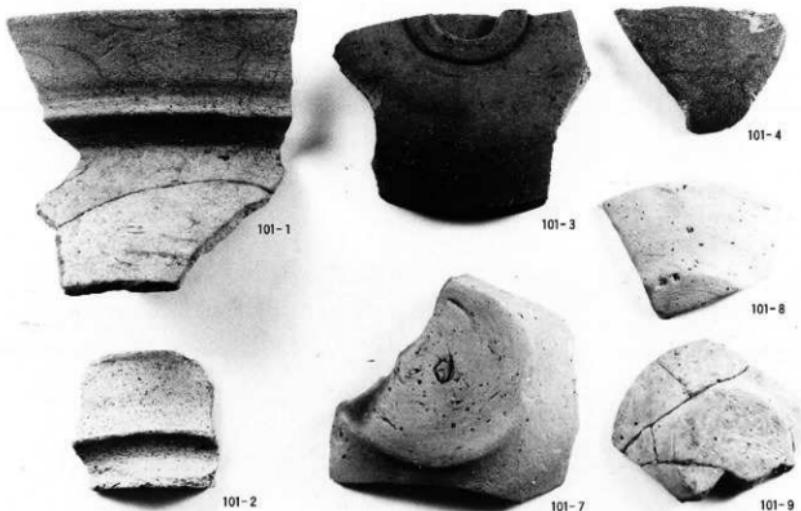
SX01



遺構内出土遺物2

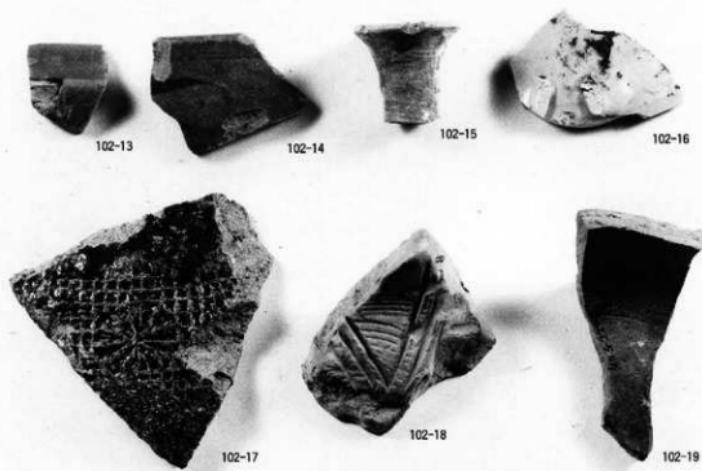
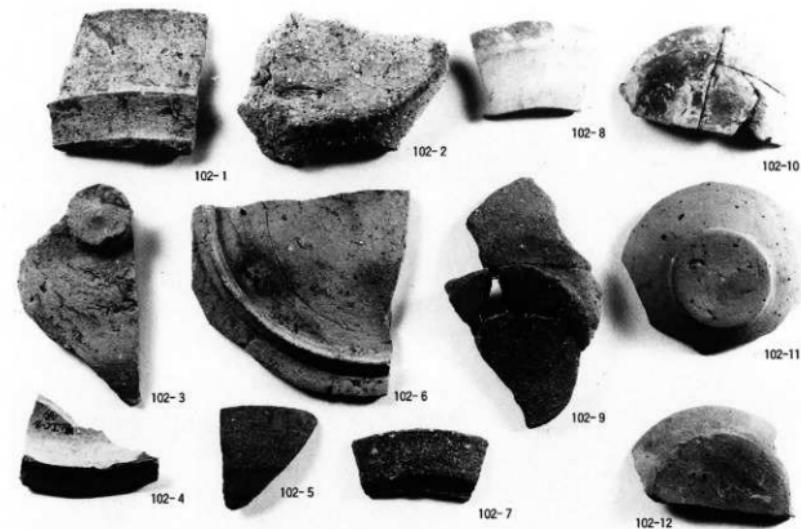


包含層5A層出土遺物

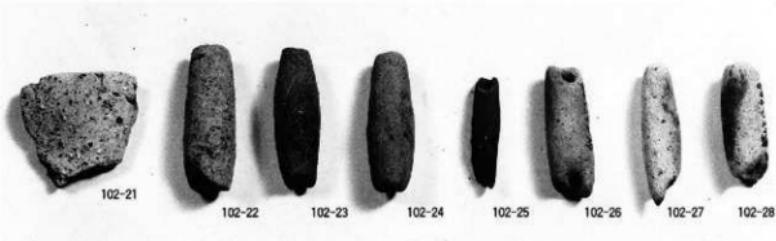


包含層5B～C層出土遺物

図版 48

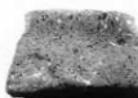


包含層4層出土遺物1



包含層4層出土遺物2

圖版 50



102-30



102-31



102-32



102-33



102-34



102-38



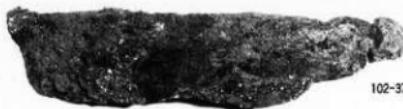
102-39



102-35



102-36



102-37

包含層4層出土遺物3

**築山遺跡Ⅱ区
図 版**

図版 51



SD09造構検出状況



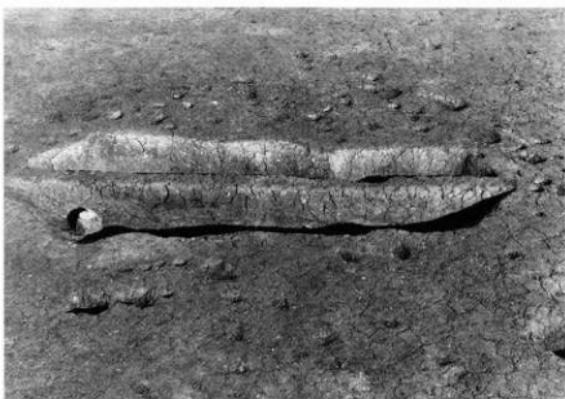
SD09土層堆積状況 1



SD09土層堆積状況 2



SD09完掘状況



SK02土層堆積状況



SK02完掘状況

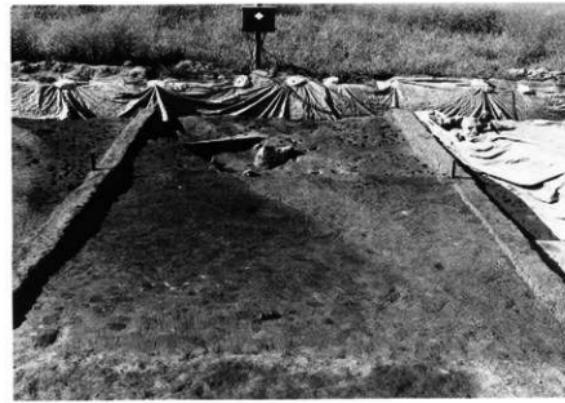
図版 53



SD11土層堆積状況



SD06・SD11発掘状況



SD10



SX01



調査状況



調査区東側（南側から）

図版 55



調査区東側(北西側から)



SK09遺物出土状況 1



SK09遺物出土状況 2